

## 令和元年第7回教育委員会会議録

日時：令和元年8月20日（火）

午後1時30分開会

場所：教育委員会室

出席委員	委員	上島均
	委員	滝澤多佳子
	委員	富田昌平
	委員	中村光一

出席者	教育長	倉田幸則
	教育次長	宮田雅司
	学校教育・人権教育担当理事	田中寛
	教育事務調整担当参事（兼）教育総務課長	下里秀紀
	教育推進担当参事（兼）学校教育課長	片岡長作
	青少年・公民館事業担当参事	青山友理子
	教育研究支援担当参事	伊藤雅子
	教育研究支援課長	
	（兼）授業改善担当副参事	川原田元
	生涯学習課長	
	（兼）津城跡整備活用推進担当副参事	米山浩之
	生涯学習課公民館事業担当副参事	
	（兼）中央公民館長	松永正春
	白山教育事務所長	
	（兼）一志教育事務所長・美杉教育事務所長	山下潤子

教育長 令和元年第7回教育委員会を開催します。傍聴はございません。本日の議案の概要説明をお願いします。

教育次長 それでは、本日の議案の概要でございますが、第40号 令和元年度津市一般会計補正予算（第3号）＜教委所管分＞について、第41号 津市消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う公の施設の使用料等の改定に係る関係条例の整備に関する条例（津市公民館の設置及び管理に関する条例の一部改正、津市一身田寺内町の館の設置及び管理に関する条例の一部改正）の制定について、第42号 令和2年度使用小学校用教科用図書採択について、3件の議案について、審議をお願いします。詳しい内容につきましては、それぞれの担当課長から説明させますので、よろしくをお願いします。

教育長 本日の議案は、お手元の事項書のとおり、議案第40号から議案第42号の議案3件です。議案第40号から議案第42号の議案3件につきましては、津市教育委員会会議規則第16条第1項第2号及び第4号の規定に該当するため、非公開としたいと思っておりますがいかがでしょうか。

各委員 異議なし。

教育長 御異議ないようですので、議案第40号から議案第42号については非公開と決定します。

議案第40号 令和元年度津市一般会計補正予算（第3号）＜教委所管分＞について

議案第40号 非公開で開催

議案第40号 原案可決

議案第41号 津市消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う公の施設の使用料等の改定に係る関係条例の整備に関する条例（津市公民館の設置及び管理に関する条例の一部改正、津市一身田寺内町の館の設置及び管理に関する条例の一部改正）の制定について

議案第41号 非公開で開催

議案第41号 原案可決

議案第42号 令和2年度使用小学校用教科用図書採択について

議案第42号 非公開で開催

議案第 4 2 号 原案可決

教育長 それでは議事のほうに入りますので、議案第40号 令和元年度津市一般会計補正予算第3号<教委所管分>について、事務局から説明をお願いします。はい、下里参事。

教育事務調整担当参事（兼）教育総務課長 教育総務課長でございます。議案第40号 令和元年度津市一般会計補正予算第3号<教育委員会所管分>につきまして、御説明を申し上げます。第1条でございますが、歳入歳出予算の増額に歳入歳出それぞれ、4, 330万7千円を増額し、歳入歳出の総額を99億4, 504万1千円としようとするものでございます。補正の主な内容は北立誠小学校内のコミュニティルームを普通教室へ改修するための工事請負費。旧北立誠幼稚園の園庭にあります遊具の移設経費、旧北立誠幼稚園園舎を放課後児童クラブとして活用するための工事請負費などの他、旧修成幼稚園を橋南公民館として活用するための工事請負費などでございます。

恐れ入ります。5ページを御覧ください。順に御説明を申し上げます。（款）10 教育費、（項）2 小学校費、（目）1 学校管理費は606万円の計上で、学校施設維持補修事業、606万円は北立誠小学校内のコミュニティルームを普通教室に改修するための工事請負費でございます。

（款）10 教育費、（項）4 幼稚園費、（目）1 幼稚園費は、88万6千円の計上で、幼稚園管理運営事業88万6千円は旧北立誠幼稚園の園庭にございます、使用可能な遊具を他の幼稚園へ移設するための手数料でございます。

恐れ入りますが6ページをお願いいたします。

（款）10 教育費、（項）5 社会教育費、（目）1 社会教育総務費は、1, 518万5千円の計上で、放課後児童健全育成事業、1, 518万5千円は、旧北立誠幼稚園園舎を放課後児童クラブとして活用するための工事請負費などでございます。（目）3 公民館費は、2, 117万6千円の計上で公民館、施設、整備事業、2, 117万6千円は旧修成幼稚園園舎を橋南公民館として活用するための工事請負費などでございます。以上で説明を終わらせていただきます。御審査のほどよろしく申し上げます。

教育長 それでは、ただ今の説明につきまして御質問等ございましたらお願いします。

北立誠幼稚園を改修して放課後児童クラブ、またコミュニティルームを入れる、また学校の部分はコミュニティルームから教室に戻すというふうなことだと思いますけれども、特によろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

教育長 御質問ないようですので、議案第40号につきまして、原案どおり承認ということによろしいでしょうか。

各委員 異議なし。

教育長 ありがとうございます。

御異議なきようですので、議案第40号 につきましては、原案どおり承認といたします。続きまして、議案第41号 津市消費税率及び地方消費税率の引き上げに伴う、公の施設の使用料等の改定に係る関係条例の整備に関する条例（津市公民館の設置及び管理に関する条例の一部改正、津市一身田寺内町の館の設置及び管理に関する条例の一部改正）の制定につきまして、事務局から説明をお願いします。

教育長 はい、公民館長。

生涯学習課公民館事業担当副参事（兼）中央公民館長 そうしましたら議案第41号 津市消費税率及び地方消費税率の引き上げに伴う公の施設の使用料等の改定に係る関係条例の整備に関する条例、津市公民館の設置及び管理に関する条例の一部改正、津市一身田寺内町の館の設置及び管理に関する条例の一部改正について、御説明を申し上げます。

この条例につきましては、令和元年10月1日のいわゆる消費税率及び地方消費税率の引き上げに伴いまして、市の公の施設の使用料の取り扱いについて、令和元年の5月の20日、ここの全員協議会の協議におきまして令和元年2回津市議会定例会に関連する市の73の関係条例の改正に係る議案を提出させていただきまして、市の公の施設の使用料へ適切に消費税を転嫁しようとするものでございます。本来、教育委員会といたしましては、公民館の条例、それから一身田寺内町の館に関する設置及び管理に関する条例が該当いたします。本来でありましたら、もう1月早く御提案させていただければよろしかったんでございますが、市全体の条例ということがございましたので、ようやくまとまったというところがございましたので、申し訳ございませんが御了解いただければと思います。

それでは、恐れ入りますが、最後に提出していただいております参考を御覧いただきますよう、お願いいたします。

まず、1の設定理由でございますが、消費税率及び地方消費税率の引き上げに伴いまして、公の施設の使用料等改正するにあたり関係条例の一部を改正す

るため、津市消費税率及び地方消費税率の引き上げに伴う公の施設の使用料等の改定に係る関係条例の整備に関する条例を制定することとしております。

2の主な内容の(1)公の施設の使用料等の改定につきまして、令和元年10月1日に実施される消費税率及び地方消費税率の引き上げ、これが2パーセントでございますが、これに平成26年4月1日時点において転嫁を見送ったもの、これが3パーセントがございまして、これを合わせて5パーセントにつきまして、使用料等に転嫁をいたすものでございます。(2)の経過措置でございますが、施行日が令和2年4月1日でございますが、施行日前に申請された使用許可に係る使用料等につきましては、従前の例によるということになりまして、改正前の使用料が適応されることとなります。

(3)の一部改正を行う条例でございますが、62の津市公民館の設置及び管理に関する条例と、63の津市一身田寺内町の館の設置及び管理に関する条例の一部の改正となりまして、津市の公民館53館、それから一身田寺内町の館、合わせまして54施設が対象となっております。資料といたしまして、新旧対照表等をつけさせていただきました。

なお見直しの使用料の算定方法でございますが、現行使用料を1.05で割りまして、そこへ更に1.1を掛け算しましたものを10円未満を切り捨てたものが見直し後の使用料ということで、整理がしてございます。以上で説明を終わらせていただきます。御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

教育長 それでは、ただ今の説明につきまして御質問等ございましたらお願いします。中村委員、どうぞ。

中村委員 済みません。平成26年4月1日時点で転嫁を見送った分、3パーセントも加えて、今回値上げする理由は何でしょうか。

教育長 どうですか。はい、松永副参事。

生涯学習課公民館事業担当副参事(兼)中央公民館長 お待たせしました。本市におきましては、平成26年4月の時点では、翌年の10月に再度消費税率の値上げ、というのが当時は予定されていたということでございまして、消費税率引き上げ分の使用料等の転嫁は、短期間、2度にわたる市民負担変更となることが当時はございましたので、そのときは現行の使用料等を維持するということで値上げはいたしませんでした。ただ、その後、消費税率の10パーセントの引き上げというものが、平成27年4月1日に消費税率の一部を改正する法律の施行によりまして、平成29年の4月1日まで1年半延期をされた。

更に28年11月28日には社会保障の安定財源の確保等々の法律とか、関係法の施行がありまして、再度、令和元年10月1日までの2年半、延期をされていると事情がございまして、今回、一括して値上げをするということになっております。

教育長 よろしいでしょうか。

中村委員 了解しました。

上島委員 ちょっと単純なことなんですが。

教育長 はい。

上島委員 例えば10パーセントになりますよね。そうすると10パーセント分は、言ったら売り上げということなんですが、使用料とか電気代とかいろいろなことを含めて、その10パーセントはもう1回、市に戻すということですね。

生涯学習課公民館事業担当副参事（兼）中央公民館長 そうです。

上島委員 実際にかかって。そういうことですね。

生涯学習課公民館事業担当副参事（兼）中央公民館長 もうひとつ、いいですか。実際はそう消費税がかかるわけではないんですけども、市の施設を運営するにあたりましては、当然ながらそのランニングコストですね。いろいろな委託料の関係であるとか光熱費であるとか、そこら辺が値上げをされるということで、実質的にランニングコストが値上がりするということを踏まえて、今回、転嫁をさせていただくというようなことになります。

教育長 よろしいでしょうか。

上島委員 わからないことはないんですが、厳密に言ったら全てが、そうしたら10パーセントに値するかと言ったらそうではないですよ。何もかもが、そのうちの電気代とかそんなものも当然そうだけでも、だけど考え方によっては便乗値上げじゃないかと。こう考えられる話になってくるんじゃないかと思うもので、そこら辺をきちんと説明するように、やはり親身にしてやらなかつ

たら結局、何もかも上がってくるじゃないかと、公共料金まで上げてくるのか、となったら、中身がわからないものでね。

教育長 何か、松本参事。

生涯学習課公民館事業担当副参事（兼）中央公民館長 今回、その消費税の取り扱いにつきましてはですね、一応その総務省のほうからも適正に転嫁されるようにということで、地方自治法の規定に基づく技術的な助言もあったということ踏まえて、市全体の中でこんなかたちでいく方向性で制定するようになっています。

教育長 よろしいでしょうか。その他、よろしいでしょうか。

それでは無いようですので、議案第41号につきまして原案通り承認ということでよろしいでしょうか。

一同 異議なし。

教育長 ありがとうございます。ご意見なきようですので、議案第41号につきましては原案通り承認といたします。

それでは次に議案第42号ということで、令和2年度使用小学校用教科用図書の採択について津市の教科用図書調査研究委員会からの調査研究結果を参考に審議をいたします。皆様には令和2年度使用小学校用教科用図書選定に関する参考資料と令和2年度使用小学校用教科用図書調査報告書を事前に御覧いただいていると思います。本日は対象となる見本本はお手元に用意しています。必要に応じて御覧いただきたいと思います。なお、今回教科書採択を適正に行うために、対象となる種目の見本本についての研究結果を十分に把握いたしたいので、津市教科用図書調査研究委員会事務局と調査員の代表者からの説明を求めます。

それでは、最初に調査研究委員会事務局からの調査研究の経緯について報告をしてください。川原田課長どうぞ。

教育研究支援課長（兼）授業改善担当副参事 調査研究の経緯について私から御説明いたします。5月13日に第一回調査研究委員会を開催し、調査実施項目を決めるとともに、当該調査研究委員会に小学校の管理職及び教諭及び保護者代表からなる調査委員を置き、調査研究を行うことを決定いたしました。また、開かれた採択に向けて、調査研究委員会の委員に2名、調査委員会の調査



員に3名保護者の代表から参加していただいております。調査員は各種目の見本について調査し、調査結果を調査報告書にまとめました。そして、7月17日に、第二回調査委員会を開催し、調査員代表からの調査報告を受け、その報告をもとに協議し、調査研究結果としてまとめたものが本日配付しました、令和2年度使用小学校用教科用図書調査報告書でございます。なお、調査および研究においては、三重県教育委員会において作成された、令和2年度使用小学校用教科用図書選定に関する参考資料を参考にしました。また、教科書展示会において来会者からいただいた御意見等についても参考といたしました。以上でございます。

教育長 ただいまの報告につきまして何か御質問等ございますでしょうか。

それでは、ただ今から令和2年度使用小学校用教科用図書調査報告書選定案の報告及び協議の方に移りたいと思います。本年度は13種目、たくさんの教科について御協議いただくということで、各種目別に、議案第41号の後にスケジュールをつけてあります。そのスケジュールに沿って御協議をお願いいたします。まずは、国語から始めますので、調査員代表の方お願いいたします。

それでは、調査員の花岡先生に来ていただきましたので、花岡先生から国語につきましての報告をお願いしたいと思います。

## 国語

花岡校長 よろしく申し上げます。国語ですけれども、新しい学習指導要領の、言葉で正確に理解し、適切に表現する資質能力を育成するという目標に沿って、今まで何を教えるかというところから、何ができるか、言語能力を育成することを中心に据えた改定がなされています。その中で、日常生活に必要な国語ということで、例えば、学習漢字の配当も今までは1,006字であったところが、20字増えて1,026字になったというような改定もございます。そのような日常生活に必要な言語能力育成という視点で、選定、調査研究を進めました。お手元の選定案を御覧ください。選定案としましては光村発行の国語の教科書を案としてもっています。各社、4社の教科用図書見本を調査検討しましたが、選定案の理由にございますように、言語能力の育成という観点で、1番上の項目に書きましたが、この光村の教科書においても、全体を見通す場面や振り返る場面の設定、様々な言語活動にあたるような場面の位置づけなどを通して、児童自身が深く考える、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた工夫がされているということを大事に考えました。特に、この光村の教科書で特徴的なことの1つとして、2つ目の項目でございますが、現行も光村の教科書を使用しておりますけれども、2つ目の項目に関する説明文教材において、

文章構成を把握する練習の設定がされているという点も光村の大きな特徴の1つです。お手元の光村の教科書、6年生を御覧いただけますでしょうか。光村の教科書6年生ですけれども、例えば、45ページを御覧いただけますでしょうか。光村の教科書においては現行もそうなのですが、説明文の単元の扉になっております。説明文の時に練習、「笑うから楽しい」というのと、「時計の時間と心の時間」これが掲示されておまして。めくっていただいて46ページ47ページの見開きに、まず、文章の構成をおおまかにつかむための練習となるような短文の教材が掲示され、その後その学習を踏まえての説明文、もう少し長文の教材が設定されております。このような構成というのは光村の教科書の特徴の1つで、これは現行の教科書においても、指導の中で子どもたちもこの構成の中で学ぶ流れ、いろいろなことを確認し、指導者もそのことを意識しながら説明文の学習を進めることができます。6年生の教科書を見ていただいておりますが、他学年においてもそのような構成がなされております。さらに、その後の記述にも触れておりますが、54ページを見ていただきますと、説明文の学習を踏まえて見通しを持とう、捉えよう、深めよう、まとめよう、広げようというように自分の考えや筆者の主張や意図を捉えて自分の考えを發表しようということで、その後の読むから話す、書く、そういった活動につなげるような工夫がされております。これは今御覧いただいていたページのみならず、その他の単元等でもこの構成というのが踏襲されており、光村を選定案とした大きな理由の1つとなっています。選定案に戻っていただきまして、3つ目の項目に記入いたしました。各社ともQRコード等の教科書連動のコンテンツを設定しておりますが、光村教科書においては、例えば、6年生の教科書でいいますと、29ページの下のほうにQRコードが設定されています。光村の特徴の1つは、この教科書連動コンテンツが教材ごとに設定されていて、作者についての解説をこのQRコードを読み取ることで確認ができます。その他にも、例えば、67ページ、あるいは84ページ、パラパラとめくっていただきますと随所にこのコードが設定されているかと思えます。設定されている教材の中身を見てみますと、画像や映像であったり、あるいは音声資料であったり様々な工夫がされていて、その教材の中で関連する資料を、指導者はもちろんのことですが、学習者である児童も、保護者等の了解を得てからになると思えますが、自宅等で読み取って確認するというような活用の仕方も可能になっている、そのような状況です。他の会社においてもQRコード等は設定されていますが、教材ごとの設定というのは光村と学校図書もそうなのですが、中身の方を見ますと、この光村の方が多様な画像、映像等工夫がされていると感じました。それから御覧いただいております6年生の教科書、巻頭のページ、3つ目、4つ目の項目で示したところですが、巻頭の折り込みページがございまして、それ

を開いていただきますと、6年生で学習することの学びを見渡そう、5年生の学びを確かめつつ6年生で学習することの2学年のくくりの中で考えることができるような構成になっております。その他の全部を御紹介できませんが、話す、読む、聞く、書く、それぞれの言語能力の育成につながる活動について様々な子どもたちが興味を持って読み進められるような、そして、教科書を通しての学習もスムーズな取組ができるような教科書であると感じました。それから、選定案に戻っていただきまして、6番目の項目で入門期のことにも触れさせていただきました。小学校へ入学しまして、初めて手にする教科書ですけれども、1年生の上の教科書を見ていただきますでしょうか。保幼と小学校の円滑な接続ということも意識して、各社とも入門期の教科書というのは工夫がされていますが、この光村教科書においては1年生の上の教科書、初めて小学校に入って手に取る教科書で、入門期にはイラストを配列して、この絵を見て、お話をしながら、多くの言葉が生まれる工夫、生き生きとしたイラストで指導者と子どもたちが学びにつながっていけるような、そのような工夫がされているのではないかと思います。また、この他にも保幼での経験を生かした親しみやすい教材が準備されて、子どもたちが学ぶことに意欲を持つような、そのような工夫がされているのではないかと思います。さらに、今1年生の教科書を手に取っていただいています。初めの方はひらがなの学習から始まり、カタカナ、そして、漢字とつながっていきますが、選定案では特に触れておりませんが、書き文字に近い美しく正しい字形ということで、手書きの部分も活字の部分も、字体についても読みやすい、美しい字体、字形が使われているというのがこの光村の教科書の一つの特徴かなと感じます。選定案の説明のみにさせていただきましたが、各教科書の単元末には、大切、生かそう、という項目が設けられて、学びを実践的な課題や知識活用の場合へ、例えば、こんな場面に生かせるよということを示していることによって、日常生活とか他の単元、読書に広げる、他教科につながるなどの学習活動の充実の工夫がされていると感じました。2番の項目の使用上の便宜についてですが、各教科書ともそうではありますが、学年の発達段階、それから系統性が考慮されています。光村の教科書においてもそれは十分に考慮され、内容面でも充実した学習となるように配列されていると感じました。光村教科書の大きな特徴ですが、これは東京書籍の教科書も同じです。1年生から4年生までは上下巻分冊となっておりますが、5年生、6年生、高学年になりますと上下巻別冊ではなく1年間通して1冊となっていることで、中学校になりますと1年間通して1冊ということですので、高学年から中学校入学時の環境変化に配慮した構造になっております。目次等、先ほど折り込みのページも見ていただきましたが、単元名とともに活動の狙いが示されており、1年間の見通しを持った学習が進められるようになっております。ま

た、イラストや資料の提示の仕方も工夫され、それから、ユニバーサルデザインの配慮ということで色調への配慮、文字の大きさへの配慮もされているとも感じました。以上の調査研究の結果で光村の教科書を選定案としてあげさせていただきます。

教育長 ありがとうございます。それでは先程の報告につきまして御質問等御意見含めまして、お伺いしたいと思います。何かございましたら。

上島委員 前の研究委員会で聞けばよかったのだけど。津市の学調の1番弱いところはなんですか。

教育長 事務局、学調の課題報告を。

教育研究支援課長（兼）授業改善担当副参事 これは全国的な傾向でもあるのですが、やはり書く力の部分に課題があります。特に、いくつかの資料も合わせながらそこから必要な情報を選んで、条件に合わせて書く、そういったところが課題かなと思います。

上島委員 全国的に。

教育研究支援課長（兼）授業改善担当副参事 全国的に書く力が課題ですけども、津市も同じようにやはりそこが課題であると思います。

上島委員 そこは配慮されましたね。

花岡校長 はい、もちろんです。

上島委員 気づいたのだけど、光村の教科書は若干色が付いている、紙に。少し黄色がかっている。他は真っ白。真っ白に黒というのは子どもにとってはものすごくきつい。本当はもっと淡い色がいいのだけど、その方が子どもにとっては目に入りやすいし、いろんな障がいを持った子にとっては、そのことが影響することあるので。その理由から言えばこの色はいいと思う。

教育長 その他に、お手元に資料が置いてありますので、他社のことにつきましても何かあれば見ていただければと思いますが。

滝澤委員 今使っている教科書も光村ですか。

花岡校長 そうです。

滝澤委員 では、かなり継続して光村を。

花岡校長 現在採択されている教科書は光村ですが、さかのぼっては把握しておりませんが、そうではなかった時もあると教委に確認しました。

滝澤委員 先生としては出版社が同じ方がやりやすいというか、そういうことはありますか。

花岡校長 指導する側にしてみると、教材の内容が変わらないと、慣れがあると思います。それから、付随して準備する補助教材等も、今までの経験を生かすことができる。自分自身国語を指導する立場で考えた時には、やはり、指導した教材というのは思い入れとか愛着があるので、そのよさを指導する中で確認することがありますので、そのよさはもちろんあると思いますが。だからということではなく、説明文教材の練習と本番があるというか、その辺の工夫というのは、説明文のその文章構成等を小学校の高学年ぐらいになると積み重ねてくるのですが、2年生、3年生あたりでは、初め、中、終わりとか、そういったところからスタートする時にはなじみやすいかなというように感じています。

滝澤委員 参考資料の一覧表を見ると、◎がついているのは東書も結構あるのですが、やはり、先生にとって教えやすいとか、どちらかと言えば光村が使いやすいみたいな感じがあるのでしょうか。

花岡校長 はい、東書に◎を2カ所付けていますが。東書の単元の目標をつかむというページであげて、振り返るページで示しているところのよさというのは強く感じました。なぜ◎をつけたかという、子どもが主体となった投げかけがされているというところが東書のよさです。光村にももちろん単元の目標が設定されていますが、子どもにこういうことを考えてみようという投げかけではなく、目標として提示されていますので、自ずとそれは子ども自身も見ることになるのですけども、どちらかという指導者としてこのことを教えよう。その主体的な投げかけがされているという点で東書の◎の項目もいいところだなと感じました。

富田委員 QRコードを使ってアクセスした時の内容についてですけど、説明文に関しては説明されている内容について、より理解を広げ、深めたりするような内容だろうと想像するのですが、物語文であるとか、詩とかの場合というのはどういう内容なのですか。

花岡校長 QRコード全てを読み取って確認するということまでではできていないのですが、見てみますと筆者の紹介、作者の紹介の資料だったり、それから詩などでは朗読の資料、映像も背景とした朗読の資料であったり、それから、話し合い活動の実際の様子を映像化したものであったりとか、そのような多種多様なものになっております。説明文ですと、例えば、ハクトウワシの画像が入れられていて、参考資料として児童が直接確認してもいいと思いますし、どちらかというと授業の中で、全部ではないですが、うまく活用することができる材料が見せられているかなと思いました。

富田委員 今言われた話し合い活動の実際の姿というのは、そういう学校での授業実践というものをとらえたような映像もあったりする場合もあるのですか。

花岡校長 そうですね。見た中にはそういうものもありました。実際の学校の授業を捉えたというよりも、ある程度演じている部分があるので。

教育長 その他、御質問等ありましたら。

上島委員 ちなみに、中学校は現在何を使っていますか。

事務局 中学校は東京書籍です。

教育長 その他にありますか。御質問がないようでしたら花岡先生と竹花指導主事は退席していただいて、協議となりますがよろしいでしょうか。それではないようですので、ありがとうございました。花岡先生、御苦勞様でした。

それでは国語についての教科書採択の御意見を頂戴したいと思います。先程の報告とか説明を聞いていただきまして、国語の採択につきまして御意見あればお願いいたします。

上島委員 その前に選定案として調査員からの報告を受けてですね、調査研究委員会としてどれにしたかということをお教えしてもらいたい。

教育研究支援課長（兼）授業改善担当副参事 調査研究委員会としては、光村の教科書がふさわしいということで調査研究結果としてまとめさせていただきました。

教育長 今から御報告いただく各教科全て先程の話と同じで、調査研究委員会の結果を経ての選定案ということになっております。

上島委員 というのはなぜかという、そこが一番の主なところだから。今のは報告だけであって、そこでどう決めたかが1番大事なのです。我々は調査員に委託し、調査してくださいと頼んでいるのだから、そこがどう結論を出したかによって我々は考えていかなければならない。調査はあくまで調査として、こうであったということだけのことなので。

教育長 今の御意見は確認をいただいたということで。きちんと調査研究委員会の審議を経ての選定案ということになります。光村ということで選定案としてあげていますが、御意見いかがでしょうか。

滝澤委員 選定していた案で賛成です。やはり、光村は非常に見やすいかなと思いますし、先生も指導しやすい。子どもたちもなじみやすいのではないかなと思うので、選定案に賛成します。

中村委員 私も選定案で賛成させていただきたいと思います。

教育長 よろしいでしょうか。御意等ないようですので、国語につきましては光村の国語を令和2年度使用小学校用の教科書として採択ということで決定してよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは津市教育委員会として、光村の国語を令和2年度使用小学校用教科書として採択することに決定をいたします。続きまして書写の方へ参りますので、選定案の回収をさせていただきます。教科書も入れ替えます。

#### 書写

教育長 それでは調査員代表の山本先生に来ていただきましたので、書写の方を進めていきたいと思っております。それでは、山本先生から調査研究委員会の報告についてよろしくお願ひします。

山本校長 書写の方を担当させていただいた栗真小学校の山本です。よろしくお願いたします。5社の教科書について、調査員として東京書籍の新しい書写が最も適切な教科書であると選定いたしました。東京書籍を御覧ください。各単元のめあてや要点の内容、それから、運筆指導の表現や方法等については、写真やイラスト、それから、多色刷りの表現方法を活用して他の業者それぞれ工夫が見られまして、大変甲乙つけがたい項目がいくつもありました。東京書籍を選んだポイントは、児童が教科書を使って意欲的に主体的に学ぶことができる、その工夫がなされているかという点について、その点を特に重視させていただきました。それでは、硬筆の入門期である1年生の教科書と、毛筆の入門期である3年生の教科書を例にとって御説明させていただきます。まず、東京書籍の3年生の教科書を御覧ください。3年生に限りませんが、主体的で深い学びの実現に向けて、学び方を示したり、学びの見通しを持たせたりする工夫において、まず、巻頭に学習用語を、書写のかぎとして示し、第3学年から第6学年までの教科書の左端に、インデックス、書写のかぎを活用して主体的に学べるように工夫されています。左の端の方を御覧ください。この左の端にあるインデックスは他の会社にはない工夫で、東京書籍だけのものです。それから、同じく3年生の教科書の見開きの3ページを御覧ください。ここには、「見つけよう」ということで原理・原則「たしかめよう」ということで振り返り「生かそう」ということで原理・原則の応用、振り返って話そうで共同的な学びへの誘い、そして、「広げよう」ということで他教科や生活での活用を促しています。東京書籍が單元ごとに各自の振り返りとともに、仲間同士の学び合いを促すように誘っているところが次世代の学びにとって大変重要で、これが特に優れていると思います。それから、1ページあたりの情報量を精選して紙面のレイアウトがすっきりしているのもこの教科書の特徴です。東京書籍3年生の6、7ページを御覧ください。それと、前に示している教育出版の3年生の6、7ページを御覧ください。例えば、このページを比較しますと、東京書籍は幅の広い教科書で上下2段に分かれています。教育出版におきましては左のページが3段に分かれていまして、特別な配慮を必要とするお子さんには少し目がちらつくということで、すっきりしているという点でも東京書籍の方が見やすいというように判断させていただいています。それから、毛筆教材で練習する際に分かりやすい工夫としては、へんやつくりのみならず、文字全部に朱を入れた淡墨書きが示されて、穂先の通りを分かりやすく示しています。東京書籍の3年生15ページを御覧ください。下という字が書かれていますが、その左下に下という字が全部淡墨書きで書かれています。他の会社は縦角のみとか、右はらいのみとかそういう業者もありましたが、東京書籍はどの文字も、全ての文字が淡墨で書かれている点が特徴だと思えます。それから、新学習指



導要領では、1、2年生における硬筆の指導において適切に運筆する能力の向上につながるように工夫することとなっています。第1、2学年において水筆や絵筆を使って、はねやはらい等の筆圧の変化を伴う運筆を学ぶ際に役立つように、耐久性に優れた水書用紙が付けられています。この水書用紙が1、2年生の両学年の教科書の巻末についています。1年生の巻末を御覧ください。このピンクの紙は取り外して使えるようになっています。日文の水書き用の用紙が1番大きくて使いやすかったのですが、全ての教科書の中身を判断して、東京書籍のこの用紙も1、2年生両方に付けられているということで、便利だなと判断しました。次に参りまして、全学年とも文字のいずみというコーナーがあります。それから生活に広げようというコーナーもあります。まず、3年生の21ページを御覧ください。文字の世界を広げて知的好奇心を育む工夫。文字だけでなく、筆、和紙、硯、墨等そのような物にも興味を持たせる工夫。1年生の2ページを御覧ください。書写体操といわれるもので、児童の書く意欲や姿勢に興味関心を高める工夫等もなされています。写真が大変分かりやすく表現されていると思います。活用単元、生活に広げようでは、はがき、手紙、ノート、ポスター、リーフレット等、日常に役立つ教材も適宜取り入れられています。3年生の26ページを御覧ください。理科に役立つ横書きの練習もできるように工夫されています。それから、40ページを御覧ください。学力テストで話題になりました封書の書き方などにも触れて、手紙の便利さや葉書で伝える時にはこのように書くのだということを案内されています。また、どの学年におきましても、擬態語やキャラクターの動き、記号等を効果的に使って、子どもたちの全ての感覚に働きかける工夫がなされています。各所に見られますが、とん、すう、ぴた、すつといった表現で運筆を導き、また、姿勢の写真については、ぺた、ぴん、とんとといった表現で正しい姿勢を導いています。これはどの学年の教科書でも見られます。使用上の便宜としまして、東京書籍はAB版のワイドな紙面で、見開きの手本が半紙サイズにより近くなっています。他の業者よりも一回り大きく、より半紙に近いサイズで子どもたちにも大変見やすくなっています。それから、タブレット等を活用して、ウェブページの一覧から運筆動画を繰り返し見るQRコードも2年生以上で活用できるようになっています。QRコードは教科書の表表紙を開けたところに付いています。保護者への説明書きも添えられています。最後に、1年生の教科書を御覧ください。16ページを御覧ください。まず、という文字がありますが、この点画を分解して一面ずつ文字の色を変えてあります。全角の色を変えることで、どこまでが一筆なのかということを理解しやすく表記されています。他の業者では同じ一色を使って書いてある業者がありました。この色彩についてもパステル調のカラーで非常に柔らかい、目に優しい印象を与えています。この色彩につ

いても色覚多様性の配慮が行き届いていると考えられます。それから、教材の文字が利き手に関わらず見やすく配置された書き込み欄も見られます。同じく1年生24ページを御覧ください。24ページにサッカーという字を練習する欄がありますが、右手で書く子も、左手で書く子どもどちらでも書けるように書き込み欄が左右に配置されています。このような配慮があるのは東京書籍だけだったように思います。それから、横文字の場合、ジュースとありますが、ジュースの場合も上に手本がありまして、左右どちらからでも書けるようになっていると思います。最後になりますが、同じく1年生の5ページを御覧ください。左利きの持ち方の写真の提示があるのも東京書籍だけです。左利きがよく見られる昨今、左利きへの配慮が行き届いているのではないかと思います。以上のようなことから、東京書籍を選定させていただきました。説明は以上です。

教育長 ありがとうございます。調査員代表の山本先生からの報告をいただきまして、御質問や御意見等ございましたらお願いいたします。

富田委員 この東京書籍の次の候補、第二候補と言ったら何になりますか。

山本校長 比較対象になったのは日文です。

富田委員 逆に東京書籍になくて日文にあるものと言うのは。

山本校長 それは先ほども述べさせていただきましたが、1年生の水書きシートの立派さといいますか、大きさとそれから用紙のしっかりとした感じ。これは他社の教科書とは比べられないほどしっかりしていました。それが調査員一同の意見でした。それから、日文にも様々な工夫がありましたけども、子どもたちに見やすいイラストとかカラフルなパステル調の表示なども子どもたちには受けるだろうなど。見やすく意欲がわくだろうという意見がありました。最後はこの両社でした。

富田委員 日文の方は3年生を見ると出てくる漢字について、送り順、書き順が結構細かく書かれていますね。

山本校長 そうですね。1、2、3と書いてあります。

富田委員 小さいといいますか、書写の対象となる文字だけではなくて、例えば、43ページは面という字、45ページには都という字。3年生ですね。他

にも色々あるのですが。

山本校長 筆順が細かく配慮されているという点ですね。

富田委員 それが東京書籍にはない。

山本校長 確かにないですね。東京書籍は紙面をすっきりさせるという点で選びました。教科書も情報量が大変多くて、特別な配慮が必要なお子さんに紙面に対する印象とか、そういう点で精選されていると思いました。

富田委員 そうですね。書写のかぎというこの左のインデックスは使いやすいですか。

山本校長 これは復習するメリットがあるということで、今この字を習っているのはどのキー、鍵を使っているのか、左のチェックで確認する、振り返りのため。

富田委員 自己学習に適している。

山本校長 そうですね。繰り返し繰り返し、毎学年これが使われていけばという機会です。

富田委員 私としては日文の方が使いやすそうに見えた。インデックスって、変な刺激になって集中を妨げる気がしたのです。白い面にギザギザがパッとあって、そこに集中できたほうがいいのに、ごちゃごちゃといろいろな色で細かい字も書いてあるので、何か雑念を呼び起こすような気がして。自主学习と言えばそうなのかもしれないですけど、書写ですと、書き順、筆順ですね、ああいう情報の方がよっぽどいいような気がするんですけど。

教育長 そのあたりはどうか。

山本校長 まず、書き順は国語でとりあえずおさえるということで。書写については、折れ、はねという、書写の鍵というのが大事で。それを、点画を丁寧に書くという国語の補いではないですけども。国語で勉強した漢字をさらに点画に分解した時にどうかという事のおさえになるということで。漢字は原則国語での漢字ドリル等々で指導するというような発想です。

富田委員 書写をしている人にとっては書き順がパッと気になって、どうだったかなと思った時に、パッとあるっていうのは助かると思うのですよね。それを国語にあるからといって、国語で指示をどうやって。対応もしてないですね。どこにあるのかっていうのは別にここで何ページにありますという事はこっちに書いてあるわけじゃない。

山本校長 東京書籍の毛筆の場合ですと、例えば、下という字、これだけを書くだけ。書くだけと言うと申し訳ないですが、1時間45分の授業でこれを練習するのですが、これについては左下にも1、2、3と書き順が載せてあります。この文字だけに集中して練習するという場合、教師の指導等の補足で出していけるという認識でした。

教育長 インデックスのことについて何か補足はありますか。

山本校長 インデックスは、子どもが楽しんで鍵に触れるということです。自主的に、例えば、折れでしたらこのピンクのところを見るんだよというように指導して、折れと始筆、終筆に気をつけて書くのだな。また、違うところではこれは筆順に気をつけるのだな。これは右はらいに気をつけるのだなというような自習的に気をつける場所のヒント、そういう目新しさではないかと思えます。

富田委員 実際の授業場面では、例えば、この教科書は開きっぱなしで、さっき繰り返し書くと書いていましたけど、ページを見てこうやるってことあるのですか。インデックスの利用ってあまり信用できないみたいな。

山本校長 先ほどの正月は。

富田委員 3年生の30ページですね。

山本校長 そうですね。これは最後のまとめでして、書き初めによく使われますが、ここまでくると下のここの全てにチェックが入っていますので、ここはまとめで書くということになります。そのような仕組みになっています。

上島委員 よいところをたくさん言われたので、迷うのです。調査員がこのことを1番大事にしてこの教科書にしたのだと。例えば、先ほど言われた赤文字

とかで書いてあるとか。東京書籍はきちっと全部書いてあるとか。こういうところを大事にしたのだと。そこを言ってくれば他はどうであろうがそれを大事にしたいなということは分かるのですが。みんな同じようにこれがよかった、あれがよかったとなるので、こちらが迷ってしまうのです。そういう点をはっきりさせてもらったら、僕らはそれでいいと思う。せめて書き初めくらい各教科書同じのにしたら、日本全国でそれのできるのになあと思いました。

教育長 その他御質問等ございましたら。

上島委員 大体学年で書写の時間は何時間ぐらい。

山本校長 30時間ぐらいです。

上島委員 30時間ですか。大体担任が教える。

山本校長 担任の場合も専科教員の場合もあります。

上島委員 国語との関連を言うのだったら、本当は国語を教える先生が教えてもらおうと書き順の関連やいろいろなことを分かってやれる。国語の免許をとろうと思ったら書写が入っていると思うのですが。子どもにも使いやすいけど、先生にとってもこれが非常に書きやすいよというのはあってもいいのではと。指導しやすいかなと。

山本校長 指導はしやすいと思います。サイズの事ですが、このサイズでちょうどインデックスの部分が余分になっているので、目障りの場合は折り曲げる、あえてここを折らせてもらいます。こうですね。こういうアイデアもあるということ。大は小を兼ねるといふ。

教育長 何か御質問ありましたら。

滝澤委員 東京書籍だけサイズが。他の教科書もそうなのですが大きいですよ。そんなに教えることについては影響ないですか。かえって見やすいですか、大きいと。

山本校長 大きい方が見やすいと思います。これとか大きいと思うのですが。インデックスがないページがありまして。こういうページなんかは写真の紙面

も大きいですし、見やすいと思います。それからこれをランドセルに入れて常時持ってくるのではなく、今置き勉というのは、子どもの荷物の重さを配慮して学校に置かせているっていうのがあるのですが、書写等々はそれにあたります。自分の学校でも調査しましたら、書写は学校に置いているというクラスがあります。

滝澤委員 学校に置いておくのだったら持ち運びの重さというのは重要じゃないかもしれないし、見やすいのでしたらそれでいいと。

上島委員 この幅の他の教科ってあります。

事務局 他教科ですよね。確認します。あると思います。

上島委員 ランドセルに入れたら曲がってしまったりすることもあるもので。

教育長 御質問いかがでしょうか。ないようでしたら調査員代表の山本先生は退出していただいて、採択になりますがよろしいでしょうか。ないようですので調査委員代表の山本先生御苦労様でした。

それでは書写につきましては、選定案は東京書籍ということでございましたけども、その採用にあたりまして御意見を頂戴したいと思います。

上島委員 審議会に出てきた意見について教えてください。書写についての質問や意見について。

事務局 調査研究委員会では、書写は報告書をもとに、ここの項目を見ると、東書の評価が高いということで、総合的に判断して東書の教科書ということですね。特に、書写のかぎ等で見通しとか振り返りが持てる、淡墨書きのところで色を使い分かりやすいとか。あるいは、その見やすさが、先ほど言われたような評価ということですね。

上島委員 インデックスの話は出ていなかった。見やすさについても。

富田委員 書写を指導するにあたっては先程のインデックスというのは指導する側からすると非常に使えるというような判断でしょうか。

教育研究支援課長（兼）授業改善担当副参事 はい。

教育長 調査研究委員会、調査員代表としてはそういうふうに判断したと。

富田委員 プラスの評価とすると指導に役立つと、マイナスの評価とすると目障りに見える。

事務局 目障りといった議論はなかったです。

教育研究支援担当参事 調査研究委員会の方で、特に、自分が印象に残っておりますのは、教える時に子どもたちがこの字が見やすいかどうか、教えやすいかどうかというところが焦点になったと記憶しています。例えば、この黒い字、あと、淡墨書き。この2つを強調してお話しされていたのですが、自分自身も現場にいた時に書写を持っていたのですが、言われたように30時間なのです、1年で。ということは、1週間に1時間あるかないかという状況ですので。白馬という字を書く時間であれば、その時間白馬を書きます。難しい字だともう1時間、次の時間にすることもあります。大体が1時間で教えて清書まで行くという字があるのです。先ほど、筆順の話がありましたけども、日文で筆順について詳しく書かれています、他の漢字についても、そこまで詳しく筆順を追いながら練習するというのはなかなか難しいところがあって、そこは国語でということをやられていたと思うのですが、1番はこの主の字をどのように教えるかということなので、筆の運筆点を中心に先生たちが教えていくとなると、東書が他に余計なことが書いてなくて分かりやすい、字が一番大きいというので一番分かりやすいのかな。自分自身も聞いていて思ったのは東書でした。

教育長 見やすさ重視。

教育研究支援担当参事 見やすさと、あと、教えやすさ。教える中心はこの字、主にこの字。この字が子どもたちにとって分かりやすいかどうか。この字を書く時に運筆の情報がより分かりやすいかということを見た時に、これだったのかなと聞いていて感じました。

上島委員 そこを強調してもらった方がいいのです。皆同じようにこれも大事だ、これも大事だと。それだったら、一体何がいいのかと。教える者として、書き順とか筆の大きさとか、1番いいと言ってもらう方がはっきりするのです。

教育長 御意見ありましたらお願いいたします。

滝澤委員 書写のかぎについては、説明を受ければ子どもは字を書くのに集中すると思います。説明を受けてもう少し深くこの字について考えることで、どこに注意をして書けばいいのかなと思う子にとっては、左の横のインデックスで赤いピンクでマーカーが示されていて、ここは折れ、折り返しが必要なのだということを説明してあげれば、これを有効に使える子も結構いるのではと思います。気が散ることもあると思うのですが、気が散ったら折って使ってもらったらいいですけど。でも、このインデックスがあるから、子どもたちにとって集中しにくいということは、子どもによってどういう学び方をするによって違うので、それほど問題にならないのではないかなと思います。これはこれで使える書写のかぎということになると思います。

上島委員 教科書会社はいろいろなアイデアを出してきている。いいかどうかはこちらで判断すればいいこと。先生が言わなければいけないこともその都度ある。読める子はいいのだけど、読めない子にとっては一言声をかけてやることも大事である。何がいいのか、これだっというのを言ってもらったらいいのです。

富田委員 目障りだっというのは言い過ぎましたけども。子どもたちが自主学習をする際に指導される先生が、指導する際にも役立つような道具でもあるということで。僕も最初見たときに評価が分かれるようなものだなと感じたので、いろいろ聞かせていただいたのです。おっしゃられるような理解であればいいのではないかと思います。

教育長 その他御意見いかがでしょうか。いろいろと御意見出てきましたけども、先程お話しいただいた通り、見やすさを重視すると東京書籍ということで。それでは書写につきましては東京書籍の「新しい書写」を令和2年度使用の小学校用教科書として採択するということで決定してよろしいでしょうか。

それでは教育委員会として東京書籍の新しい書写を令和2年度使用小学校用教科書として採択することを決定いたします。次は図画工作です。しばらくお待ちください。

#### 図画工作

教育長 藤並先生に来ていただきましたので図画工作についての調査研究委員会の報告を御説明いただきたいと思います。よろしく申し上げます。



藤並校長 よろしくお願ひします。図工は2社の教科書でした。この見本本を協議しまして、委員会としましては日文の教科書を選定させていただきました。その理由について説明させていただきます。まず、どの教科書にも掲載されている子どもたちの表情、それから創造活動をしている手元の写真、写真に添えられている吹き出しが発想や構想のヒントになるように工夫されております。また、様々な活動場面で児童が相談し合う姿であったり、鑑賞場面で話し合ったりする姿がたくさん紹介されていることで、気持ちを伝え合いながら活動に取り組めるように設定されていると思います。このことで、対話的な学びにつながるように工夫がされているとともに、児童の主体性や興味関心を引き出す工夫が図られていると思います。例えば、1、2年生の下の教科書の18ページから19ページを御覧ください。ここには「しんぶんとなかよし」という題材で、新聞を使って子どもたちが新聞に触って、新聞の感触であったり、丸めたり、広げたり、つなぎ合わせたりしながらどんな風に作っていかうかと、考えながら作っていく題材となっておりますが、新聞の触り心地とか、できた形をもとに様々な形を作ってみたくなるように掲載されております。とても詳しく載せてもらっている写真ですけれども、この中にも1人で活動している写真もありますし、友達と一緒に共同で作業を進めているものであったり、その後、どんなふうに片付けていくというものであったりというのが非常に分かりやすく、子どもたちが興味を持って活動に取り組めるように紹介されていると思います。同じように、1、2年生の上の12ページから13ページを御覧ください。ここを見ていきますと、出来上がってくるまで、本当に入学初期の子どもたちの活動になると思うのですが、折り紙を使ってそれを切ってどのような形ができてくるか、それをつなぎ合わせてどうなるかということ非常に楽しみながら活動できる題材であると思うのですが、出来上がってくるまでの児童の表情が実に豊かに、やりたいと言う気持ちになるように工夫されていると考えました。また、これらは適切であると判断した日文の教科書ですけど、他社の教科書では、例えば、段ボールの素材を使って活動する場合、個人の創作活動にとどまっているのです。ところが、この選定案の教科書では、3、4年生の上の40ページ、41ページを御覧ください。材料をどのように組み合わせるか、友達と会話して話し合いながら制作していることがよく伝わってきます。主体的、対話的で深い学びの実現に向けた学習場面の一例であると考えられます。このように、選定案として考えさせていただいた教科書は、非常に児童の表情も豊かですし、いろいろな友達と一緒に活動していく、それから、これはどうなっていくのだろうかとか、どうやってやったらうまくいくのだろうかとか解決しようとしている姿もそこに載せてもらっておりますので、この学習指導要領の目標に沿った題材がたくさん紹介されていると考えられます。また、

1、2年生の上から5、6年生の下まで6年の教科書全てで話や詩を聞いて、想像を広げて思い浮かべたことを言葉で整理しながら表現していく題材が系統的に設定されております。感じたこと、想像したことを大事にしながら自分の思いを言葉で整理しながら表現できる題材が配置されているということは、言語活動の充実が図られていると考えられます。それから、全ての題材に学習のめあてが3つの観点で示されております。このことは主体的に造形活動ができるように工夫されているとともに、題材の最後に必ず振り返りが設定されておりまして、振り返りというふうには書いてないのですが、2ページの見開きになりますので、こういう部分に振り返ってみようというように書いてあるのですが、この部分が活動を通して、感じたりとか考えられたりしたことを先生とだったり、友達とだったり、対話を通してまとめられるようになっており、こちら言語能力の育成を図れるように工夫されていると考えられます。こちらの教科書には1、2年生の上以外の5冊の教科書に、必ず図画工作のつながり、広がりという題材がございます。こちらには地域の文化を大切に、地域と共同して活動が行えるように例が紹介されております。例えば、5、6年生の上の54ページから55ページを御覧ください。5、6年生の教科書では、古民家の保存をしている施設で中学生と一緒に作品を作っている小学生の様子が紹介されていたり、あるいは、地域の建物、旅行での看板作りを一緒にしたりという形で、地域の文化の紹介だったり、地域と共同して活動が行えるように紹介されていて、いろんな人とつながっていけるように工夫されていると思います。また、どの教科書にもひらめきポケットというページが設定されております。そちらを見るとヒントが具体的で、写真もどうなっているのだろう、やってみたいなと子どもたちが興味関心を持つことができるように紹介されております。この選定案とさせていただいた教科書は、全ての学年の教科書を見ると、作品だけのページが少ないのです。作品だけが載っているページもあるのですが、ほとんどの場合、児童が様々な表情で活動している写真がうまく載せられていて、やってみたいという意欲を高められるように工夫されております。この点が非常に大きなポイントであると思います。児童の興味関心を生かした自発的・自主的な学習を促すために工夫が図られていると考えられます。こちらの教科書はどの題材も見開き2ページで掲載されております。他社は1ページだけというところもあるのですが、この見開き2ページで掲載されることは、いろいろな子どもたちがいる中で、分かりやすいのではないかと思います。巻末に使ってみよう材料と用具という、どの教科書にも載っているのですが、その使ってみよう材料と用具というのが発達段階に応じた工夫した用具の使い方、また、安全な使い方が非常に分かりやすく、しかも、詳しく説明されております。ページ数も4ページ、5ページととってもらってあ

りまして、それを見ることで非常によく分かるようになっております。例えば、5、6年生の上の63ページを御覧ください。こちらには接着剤の選び方が載っているのですが、どの接着剤がこういう材料を使う時に適合しているかという、非常に分かりやすくこれを見ることで児童も的確な道具・材料を使うことができるのではないかと考えます。こちらの日文の教科書は1、2年の上、3、4年の上、5、6年の上、全ての上の教科書に外国につながる児童の写真が掲載されておりました。様々な国の児童が共に学び合うことが自然に感じられますし、現代社会には適していると思います。津市の小学校でも様々な外国につながる子どもたちがおりますので、このあたりも自然に感じられると思いました。また、上には外国につながる児童の写真が掲載されているのですが、1、2年の下、3、4年の下、5、6年の下には高齢者や地域の人と関わる様子も掲載されておりました。学校だけでなく、地域の中で子どもたちが活動できるというような形で紹介されております。他社の教科書には外国につながる児童の掲載はございませんでした。また、造形的な活動場面の写真と吹き出しが載せてあるのですが、その発想のヒントとなるように示されておりますし、吹き出しに色付けがされております。写真と吹き出しが重なっていても非常にパッと見て分かりやすいですし、特別な支援を必要とする子どもたちにとってもごちゃごちゃした感じではなく、パッと分かりやすいのではないかと思います。1、2年生の上の巻頭、それから5、6年生の下の巻末にはそれぞれ幼稚園や保育園の幼児期の経験を振り返るページがあります。それから、中学校への学びのつながりを意識できる、中学生になるあなたへというページが設けられております。就学前から中学校へと接続が配慮された教科書であると考えられます。全ての題材の中に必ず気をつけよう、片付けというのが設けられておまして、安全指導の充実が図られている教科書であると考えました。このような理由から、日文の教科書が最適であると判断させていただきました。

教育長 ただいまの報告につきまして御質問御意見等ございましたらお願いいたします。

上島委員 聞かせてもらいましたが、作品の並び方ではなくて、活動する場面で子どもたちの活動意欲を湧かせることを1番大事にしたいということによろしいですね。

藤並校長 はい。

教育長 その他、御質問等ございましたらお願いいたします。

中村委員 教科書の選定とは直接関係ないかも分かりませんが、先ほど地域の方の写真が出ているという話がありましたが、地域のつながりということで、具体的に図画工作で地域に出て行くということはあるのですか。

藤並校長 例えば、学校の近くになりますけれども、総合的な学習の時間で活動させていただいたところの畑に自分たちで看板を作らせていただいて、それを立てさせていただく。また、その材料を地域の方と一緒に用意するような形で作るなど、地域の方と活動することも可能であると。他の教科とも連動しながら実践します。

教育長 御質問よろしいでしょうか。なければ調査員代表の藤並先生には退席していただいて協議となりますが、よろしいでしょうか。それでは藤並先生ありがとうございました。

それでは図画工作の教科書採択について御意見ございましたらお願いいたします。

富田委員 内容の違いがはっきりありますよね。確かに子どもたちの写真からして全然違うと思うので、そこからやる気を出したいとか、自らやってみたいという、そういう部分をかき立てるような内容です。日文がいいかなと思います。

滝澤委員 同じ意見です。1、2年生は楽しい、おもしろいから始まって興味を持たせて、だんだんみんなで作りに上げていく。あるいは、最終的には地域の人とか、お年寄りとかそういうところまで視点が向けられていますし、気をつけようとか細かい道具とか、全て情報が入っているような気がしまして。教えやすいのだろうなと思いますし。子どもたちも興味が湧くような表現となっているのではないかなと思いますので賛成です。

教育長 その他、御意見よろしいでしょうか。それではないようですので図画工作につきましては、日本文教出版の図画工作を令和2年度使用小学校用教科書として決定してよろしいでしょうか。それでは、教育委員会といたしまして、日本文教出版の図画工作を令和2年度使用小学校用教科書として採択することを決定いたします。

音楽

教育長 続きまして音楽につきましての採択候補の報告をお願いしておりますので、調査委員代表の曾根先生よろしくお願ひします。

曾根教頭 よろしくお願ひいたします。音楽を調査させていただきました。両社とも新学習指導要領に沿って工夫された素晴らしい内容の教科書であると確認しました。それぞれ特徴がございまして一覧表にありますように、特に優れた点については◎、優れている点については○、それから印のついていないところについては、十分条件を充たしているという判断をしました。まず、教育芸術社の方ですけれども、御覧いただいたようにつけたい資質能力をしっかりと身に付けるようにすることができるようになっておりまして、思考、判断、表現を高める内容になっていて、これまでの研究の着実な歩みの上に今回の教科書は編集されているなと思います。また、一方の教育出版社の方ですけれども、多彩なジャンルの音楽を幅広く取り上げられていて、アレンジも柔軟で創造性が感じられております。後で詳しく理由等を申し上げますけど、子どもたちがおもしろそうだな、楽しそうだなと感じるような仕掛けがいろいろなところに散りばめられている教科書ではないかと思ひます。また、教育出版社の方は活動のプロセスが見渡せるように、やれるかな、やってみようかなと思わせる仕掛けが見られる、子どもたちが分かるまで主体的に取り組める、また、指導者も進めやすいような、例えば、鍵盤ハーモニカの指導の導入について書かせていただきましたけど、導入については活動に入りやすい配慮が見られるということで、教育出版社の方は楽しく学んで音楽の資質能力が育成される教科書ではないかということであげさせていただきました。選定案を詳しく報告させていただきます。まず、教科の目標を達成するための工夫としまして、一覧表の1-(1)に基づいて書かせていただきましたが、問題を解いていく、学び取っていくということについては、音楽的な見方や考え方を働かせて活動に取り組めるように、音楽を形作っている要素が示されております。例えば、教育出版社の3年生の25ページ。まず、右の上の方に音色、旋律、変化というのがあると思ひますけど、これを勉強していくのだよということが示されています。一方、教育芸術社の同じ3年生の7ページを御覧ください。これについて学んでいくのだよということが示されているのですけど、右下のページ数の辺りに小さく書かれています。教育芸術社の7ページでございまして。対比して見ていただきますと、学ぶことがはっきり分かるかなと思ひます。それと、教育出版社の方は、右上にメモと書かれていますのですけども、そこに、例えば、こんなことを勉強していこうねとか、聞き取ったり感じ取ったりしたこと、いろいろなことを書くことができる欄が設けられていまして、これを勉強していこうと主体的に進められるような形を教育出版社のほうは取っています。一方の教育芸術社

のほうは、全部通してですけども、そのような書くところはございません。いろいろな工夫をされていくと思うんですけども、そのような主体的に取り組む点については教育出版社の方がよいのではと思います。それと、音楽ですけども、限られた時間で指導していきます。特に、5、6年生は年間で50時間、週に1時間、2時間ない、そういう中で指導してまいります。この曲で何を学ぶかということをはっきりさせていくのに生かせるのではないかと。それから分量です。1行程度で書くので、書くのが苦手な子でも書いて意欲を持って進められるのではないかと判断いたしました。次に選定案の2でございますが、これも同じように自主的に学んでいく工夫として捉えました。学びナビ、同じ、今開いていただきました教育出版社の25ページを御覧ください。学び合う音楽。ここに具体的な活動が示されております。これをやって、次こうやっていこうね、みたいに子どもたちが見通しを持って学習できるというようなことが楽しく示されている。また、これから若い教員が増えてまいります。そして、指導していく中で子どもも見通しが持てる。そして、教師もこれをしていくのだよということを導きやすい教科書であるというように考えました。特に、他の学年で見ますと5年生、教育出版社11ページを御覧ください。そして、教育芸術社の15ページを御覧ください。ここのところを見ていただきますと、その進め方といいますか、教育出版社の方は学び合う音楽として学び方を示しております。自主的なんですけども、友達と一緒に対話しながら一緒に進めていく形をとっています。一方教育芸術社の方は、同じこいのぼりですけども、曲の特徴について調べましょうということで、音楽的な要素を重視した取り組みになっています。このような形で、両社特徴があるのですが、自主的に学んでいくプロセスということから考えて、教育出版の方が楽しく見通しを持って取り組むことができると考えました。選定案の3番を御覧ください。一覧表の1-(5)の体験活動のところに該当するかと思うのですが、身体表現を効果的に取り扱っているので表記させていただきました。音楽に合わせて体を動かすことによって曲想はこんなのだな、それから、音の高さはこんな高さなのだ、こんな流れなのだということを、体を使って表すというそういう特徴を持っている編成がされていると捉えました。例えば、教育出版社の1年生8ページを御覧ください。1年生に入って音楽はどうなるのだろうか。こんな曲やっついこうか。まだ幼稚園、保育園から上がってきた子どもたちです。楽しく体を動かして、感じ取った事を表わそうと、大変自由度が高い、そういう音楽の始まりかなと思います。そして、9ページの上なんですけども、波を越えての横ですが、どうしてそういう動きをしたのか理由を友達とお話ししてみようと、書き取りを大事にした活動をしているなと思いました。同じく教育出版社の3年生の43ページを御覧ください。よく知られている「富士山」です。この共

通教材の活動についてはどうかと、身体表現の関わりで見えていきますと、同じ教育芸術社の41ページを御覧ください。同じ3年生です。同じ富士山のページですが、曲の山を捉えようということで両方ともあげられているのですが、教育出版社の方はそれぞれの音の旋律の流れを手で表してみよう、リズムで打ってみよう、体を使って感じ取らせているところがあるのですが、教育芸術社の方は、感じ取りましょう、探しましょう、歌いながら探していく、両社そういう特徴が見られるページだなと紹介させていただきました。今のことによって身体表現を効果的に使っている教科書ではないかと思いました。次に、選定案の4番でございます。これも一覧表の1-(1)に関わっているところだと思うのですが、課題を解決する部分について、音楽作りでこんな曲を作っていく、このような音楽と一緒にやってみようというようなことについて見えてきました。教育出版社3年生の27ページを御覧ください。このページではいろいろな表現をして遊ぼうというふうに書かれています。自分の表したい音や音楽について他者に伝えて、友達と共有したり、意見を取り入れたりしながら、学び合っていたりとか、こんなことができると気づいていたり、新しいものを見出していく活動が楽しく展開されている形になっています。58ページも御覧ください。そして、教育芸術社同じ3年生の56ページを御覧ください。両社五線譜の楽譜でないもの、音の微妙な感触を表すような位置づけの楽譜になっているのですが、この活動においての教育出版社の方はプロセスが分かりやすく示されていて、他者との関わり、いろんなパターン、例えば、カードをつなげて演奏したり、重ねたり、1人だけ交代したりと、いろいろな形態が示されていて、楽譜に近づけるような形で1小節1小節ごとをパターン化されたものが示されていて、多様な組み合わせということで構成する、選択する幅が広く示されており、一方、教育芸術社の方は多様な楽器を示し、そして、魔法の音ということで表しているのですが、創造性豊かに独創性を持って表現する楽しさが味わえるのが教育出版社の方ではないかと思います。特徴的におもしろいなというところがあるのですが、同じ教育出版社の5年生46ページを御覧ください。ここのは、しんしんという言葉をつなげていくのだからと聞いた時に、47ページのページが書いてあるところに「ゆき」63ページと書かれています。続けて63ページを御覧ください。これが音楽になっていくのだよ、しんしんっていう、「ゆき」という詩なのですが、これが曲になっていくのだよ、そういうつながりを表すような音楽作りを展開することが大変楽しいかなというふうに捉えました。次に、選定案の5番に進ませていただきます。これも1-(1)で同じ項目として見ました。リズムの学習です。音楽にとってリズム

はとっても大事なものです。これも特徴としてあげております。教育出版社の1年生16ページを御覧ください。「ぶんぶんぶん」よく知られている曲なのですけども、一方、教育芸術社は1年生24ページです。このところで1年生の段階でどこまでリズムというものを分かっていったらいいのだろうなど考えた時に、現在、津市は教育芸術社の教科書を使っているのですが、教育芸術社の方は、ぶん、ぶん、ぶん、ウン、はちがとぶ、(手を叩いて)というふうに音の数で出せるリズムというのをやっています。または、拍でやるのも出てくるのですが。これを教育出版社の方は、たん、たん、たん、と拍でリズムを捉えさせていて、1年生のこの段階では拍を捉えさせることが大事ではないかと思われ両社を比較しました。そこで分かりやすくリズムを捉える、拍を捉えるという勉強を1年生の段階ですませた方がいいのではないかと考えまして、教育出版社の教科書のほうが分かりやすいなと思って選びました。リズムの学習が分かりやすくなっているということで教育出版社の方にしました。次に、選定案の6番です。一覧表の1-(6)、児童の興味関心を生かした学習を進めるといふ点であげました。両社とも巻末のところにこんな曲を歌っていったら楽しいよ、この学年の活動としてはということいろいろな曲が示されております。教育出版社の方も歌唱を中心にとっても響く内容の曲が集められております。一方、教育出版社の5年生の66ページですね、ここに御存知のゴジラという曲が出てきています。今のゴジラのように例えば、6年生でしたらオリンピック賛歌、6年生だったら劇団四季の曲というようによく知られている曲がジャンル幅広く載っております。それから、後は書かせていただきましたように、1年生の68ページを御覧ください。全校合唱というタイトルが付けられています。全校というタイトルが付けられているということは1年生から6年生で同じように歌うということですが、曲が手話付きで載っております。そして、1つ戻っていただきますと、音楽の贈り物があります。これも1年生から6年生まで同じように載っております。したがって、この教科書では同じ学年の子どもでも一緒に、例えば、全校で歌ったり、集会で歌ったりという共通の曲が載っているというのも1つの特徴だと思います。それから、いろいろな曲の中なのですけども、曲調として、特徴として児童の実態場面に応じたアレンジがなされています。今見ていただきました教科書でしたら、例えば、「八木節」という曲があるのですけども。6年生の64ページを御覧ください。このページでは64、65ページ、66、67ページも「八木節」になっています。楽器編成と児童の実態場面に応じた2つの編成がなされています。このように教育出版社では同じ曲でも、編曲アレンジした楽しめる活動ができるような曲が選曲されております。以上のことで児童の興味関心を生かした音楽活動ができるように工夫されているなと思われました。次に、選定案の7番ですけど



も、一覧表の1-(2)の言語能力の育成というところで特徴があるので選びました。なかなか音楽を言葉にするというのは大変難しい。また、語彙力もいるということなのですけれども、その点につきまして教育出版社ではこのようにされておりまして、6年生の76ページを御覧ください。本当に後ろの方です。ここでは音楽を表すいろいろな言葉のページが設けられております。これは教育芸術社にはないページでして、工夫が見られるなと思います。これは6年生ですけれども、学年が上がっていくと言葉も増えていって6年生でこれだけの言葉が出てくるということです。例えば、このページ、他に特徴があるなと思ったのは、下の方に自分が見つけた言葉を増やしていくことができる。各学年このようなページがありますので、どんどんどんどん音楽を言葉にしていく、音楽の要素を見つけていくということについての活用ができるのではないかとということであげました。これがどんなふうに生かされていくかといいますと、教育出版社の4年生の53ページを御覧ください。「ノルウェー舞曲」という鑑賞のページなのですけれども、53ページのところに、聞こえてきた旋律、速さや強さを書くところがありますが、これはどうやって書いたらいいのだろうなといった時に、同じ教科書の76ページを御覧ください。ここにも音楽を表すいろいろな言葉が載っています。これを見ながら書いていたりとか、見つけていたりとかできるようになっています。子どもの学習の助けになるということを見つけました。次に、選定案の8番です。一覧表でいきますと1-(7)、他教科との関連ということであげました。他教科との横断的なつながりということが今回言われているのですけれども、この点に関して特徴としてあげました。教育出版社の5年生37ページ。民謡を訪ねてということで日本地図があり、いろんな場所の民謡が紹介されているのですけれど、下を御覧ください。それぞれの歌がどんな時に歌われるか、図書館やインターネットで調べてみるのは楽しいよという方法を示してあります。これによって、例えば、曲だけではなくて5年生ですから社会の産業の学習とリンクしているなと捉えました。仕事について調べよう、曲が生まれた背景や人々の思いを知るということで、より一層理解を深めることができるのではないかなと。そして、より音楽を理解し表現につなげていくことができるのではないかなとということであげました。また、外国語活動との関連で、英語の歌が教育芸術社も教育出版社の方も両方取り上げられています。教育芸術社の方は様々取り上げられているのですけれど、1、2年生ではありません。あとは曲数が少ないなと考えました。教育出版社の方は1、2年生でも取り上げられています。教育出版社の1年生60ページを御覧ください。「きらきら星」ですが、音楽ランドの欄ではありますけれども、英語の教材を同じようにこの最初のところに、2年生だけ2番目に上がっているのですけれども、それを考えますと全学年で英語の歌を取り上げて、継続して親しめ

るようになっていました。次に、使用上の便宜の方に入ります。一覧表でいきますと2-(1)と(4)に関わる分として書きました。まず、選定案の9番ですけど、鍵盤ハーモニカの導入のところを比べてみました。教育出版社の1年生34ページを御覧ください。そして、教育芸術社の方は37ページを御覧ください。鍵盤ハーモニカの大きさと同じように分かりやすくするように両社なっていますが、見比べていただきますと、教育芸術社の方は弾く音だけ、ドとソだけここに書かれています。教育出版社の方は全部の音が書かれています。覚えていくのにもドレミファソラシドと指導していきやすい。そして、全ての鍵盤に書かれていることで指導しやすいと考えました。それから、教育出版社の方ですが、黒鍵が2つの山、3つの山というように子どもの目線で見ると、膨らみが高くなっているところだと分かりやすく示しているとも思いました。それから、35ページの上の方から御覧ください。ドドドだけの時はこのように教育芸術社の方もなっていますが、教育出版社の方は36ページ、37ページを御覧ください。五線の下に2本、線が入っています。そして、教育芸術社の方は、次ページを進めていただいて、39ページを見比べてください。線があることでとても分かりやすいなというふうに捉えました。本当に小さな違いなのですが、子どもたちが個性に触れる、視覚的に高さを捉えやすくするということと、五線譜への導入を無理なく進められるのではないかなというふうに考えました。教育芸術社の方はもう少しページを進めていっても、線が出てくるのがもう少し後になっています。早くからこのように導入する方がよいのではないかなというように捉えたのがこの観点です。次の点につきまして、一覧表で2-(4)です。特別な配慮を必要とする児童等への配慮ということで、ユニバーサルフォントを取り入れた紙面、視覚に困難さのある児童等にも学びやすい紙面となっているということが教育出版社の方では言えるのではないかなと思われました。また、ユニバーサルフォントということについては見やすい字の大きさと、字体のことをあげました。両社比較していただきますと、少し字体が違うということを見ていただけるかと思えます。それから、次に書かせていただきました透明シートということについては、教育出版社3年生9ページを御覧ください。透明なシートが出てまいります。これをめくっていただいて、真っ白にしてください。重ねていただきますと一度にたくさんのが学習できて確認ができる。5年生にもこれが見られます。5年生ですと31ページもオーケストラの曲についてなんです、これをかぶせることにより多くのことを学ぶことができます。加えて教育出版社の方なのですが、見開きのワイドなページがございます。同じ5年生を見ていただきますと、最初のほうに鯉のぼりが8ページ。大きな鯉のぼりが柵引いているのが見て取れると思えます。3年生ですと40ページ富士山。とても大きな画面で分かりやすくなっており効

果的かと思えます。最後ですけれども、日本の民謡お祭りを訪ねてというところですが、教育芸術社も同じように民謡をお祭りの音楽と捉えて書かれているのですけれども、教育出版社の4年生の30ページを御覧ください。ここのところに民謡が取り上げられています。そして、同じく教育出版社の5年生の36ページを御覧ください。取り上げ方なのですが、これは他教科との関連でも見られたことですが、教育出版社の方は4年生の40ページでは季節に分けて、お祭りを訪ねてというテーマが設けられています。季節によってこのようなことがあるのだよということが紹介されていて、5年生になって地図で民謡を訪ねてということが載っています。ここのところでは他の学習との関連ということで、社会で4年生の時に日本地図を勉強します。県名を勉強します。そして、そのことに基づいて、4年生では日本地図ということには結びつかないで、季節について記入されている。そして、5年生で日本地図を使ってその意味を表しているということで、学習とリンクさせている掲載の仕方をしているなというふうに捉えましたので特徴としてあげました。また、先ほども申しましたように産業とも絡めてこの点について理解できるのではないかなと思いましたが特徴としてあげさせていただきました。以上、選定案について説明させていただきましたが、両社とも考えられた教科書でいろいろな工夫が見られます。一覧表にはあげませんでしたけれども、ICTの活用ということで両社ともQRコードで学びやすく学習できるように工夫されています。そういうところで両社の工夫もあったのですが、一覧表であげさせていただきましたように、特に、両社を比べて特徴的なところをあげた結果、調査員会で話し合い検討いたしました結果、来年度から使用する教科用図書はこの教育出版社の教科書を選定案といたしますことをここに御報告させていただきます。

教育長 はい、ありがとうございます。曾根先生、今は教育芸術社で、変えるという案ですね。先程の報告について御質問等ありましたらお願いします。

上島委員 先生方が使う側からすると、会社が変わると共通の部分もあると思うのですが、曲も変わりますよね。使いやすさとかそんなことは話題になりましたか。

曾根教頭 使いやすさについては、先ほど鍵盤ハーモニカの導入とか、曲がいろんなジャンルで幅広く、それから活動が多様であるということから楽しく学べるのではないかなというように調査員の中では検討した結果です。

教育長 変わったことについての使いにくさ使いやすさということはどうです

か。変わることを前提として。

曾根教頭 使いやすさについては教育芸術社よりも教育出版社の方が活動が明確に示されているので、授業で進める点については進めやすいのではないかなと思います。

上島委員 取り上げられている曲が、例えば、3年生だったらこの曲だとずっとやっていたけど、教科書が変わると、時期によってこれがないとか。そういったことの使い勝手の悪さよりも、子どもの活動を大事にしたいということでもよろしいですか。教育出版の方が内容的に楽しく学べるような内容になっていると。教師の慣れよりもその方が大切だという考え方でよろしいですね。

教育長 その他、御質問等ありましたら。

曾根教頭 付け加えさせていただけるならば。例えば、音楽が好きになるかどうか、楽しく歌いたくなるかと考えた時に、分からない、できないということ子どもたちに感じさせないようにしたい。ピアノが分からない、吹けない、リコーダーも分からないということにならないように導入が丁寧にされているのかという点については話し合いをしました。子どもたちが楽しく活動できる、楽しく学べるということについてこの教科書がよいのではないかと考えました。

教育長 他にいかがでしょうか。ないようでしたら。代表の曾根先生には退席していただいて。ありがとうございました。

それでは音楽につきましての教科書、御意見についてお願いいたします。教科書会社が変わりますけども、使いやすさということで先ほど上島委員にも確認していただきましたけども、教育出版の方がよいのではないかとというような報告だったのですけども。

上島委員 実際の話、音楽を教える時に、何年生の時にこの曲だとか。それが変わってしまうということについて、調査員はいいのだけでも、本当に現場の先生は戸惑わないかなという気がするのですけども。それでも、子どものこうした活動を大事にするのだと、入りやすさとかいろいろ検討した結果なので。それだったらそれでいいのではないかと。それは一人一人の先生にも納得してもらわないといけないと思う。

教育長 ありがとうございます。他に御意見ございましたらお願いします。よ

ろしいでしょうか。それでは、音楽につきましては教育出版の小学音楽 音楽のおくりものを令和2年度使用小学校用の教科書として採択することに決定してよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは教育委員会としましては、教育出版の小学音楽 音楽のおくりものを令和2年度使用小学校用の教科書として採択することに決定いたします。続きまして家庭の方に続きますので少しお待ちいただきたいと思えます。

## 家庭

教育長 調査員代表の小林先生に来ていただきましたので、続きまして家庭の選定案について御報告いただきたいと思えますのでお願いします。

小林校長 家庭科は、2社の教科書見本本について調査員の報告を元に協議しました結果、東京書籍の新しい家庭5・6が最も適切な教科書であると判断しました。その主な理由はお配りさせていただきました様式2の選定案の通りですが、中でも主な理由といたしまして、調査項目の中にあります、学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫から2点、使用上の便宜について2点、計4点説明させていただきます。それではまず、学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫についてということで1点目を説明させていただきます。1点目の説明の部分が一番選定にあたってポイントとなったところでございます。1点目につきましてはこちらの様式2の3つめの項目になります。様式1につきましては1-(4)にあるのですが、それは学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりするための工夫があるということです。具体的には、各教科の学習の流れが3つのステップで構成され、問題解決的な学習が大変期待でき、やはり、家庭科ですので実生活に活用できる力というように育成が図られるように配慮されています。この問題解決学習の3ステップで構成されている部分につきましては、他社の開隆堂、様式1の一覧表でも書かせていただきましたけど、こちらの方も見つける、気づく、それから、分かる、できる、生かす、深めると構成されておりますが、選定案となった発行者の東京書籍では学習の進め方として大変分かりやすくなっております。教科書の4ページを御覧ください。この3つのステップというのが各題材の学習の流れが1番目ということで課題発見、「見つめよう」、2番目に課題解決・実践活動ということで、「計画しよう・実践しよう」というのがあります。それから3番目に評価・改善ということで、これが大事なことになってくると思うのですが、「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」この3ステップで構成されています。具体的には教科書の14ページを開けていただけますでしょうか。各学習の流れが分かるように、最初のページ、14ページの左側の上の方にあ

るのですけども、そちらに学習の流れというのがありまして、ステップ1の部分では調理の目的や手順を考えよう、そして、ステップ2ではゆでる調理をしよう、ステップ3では工夫しておいしい調理にしようということで、その3つのステップで課題発見、課題解決、実践活動、評価改善ということで表示されております。そして、このステップにはそれぞれ視覚的に分かりやすいように、この左端にもあるのですけども、円を3分割して、今、1つ目である、2つ目である、3つ目であるということが分かりやすくなっております。それから、各ステップにはめあてと振り返りが掲載されておりまして、子どもたちが主体的に無理なく学習を進められる工夫がなされていると思います。15ページを御覧いただきますと、ステップ1の見つめようの下のところ、めあてというのがございます。このステップ1でどういうことをめあてにして学習するのかということが最初に載っています。そして、このステップ1の終わりのところには15ページの下を御覧ください。振り返ろうということで、子どもの振り返りがそこにも載っています。それぞれのステップ2、ステップの最初と終わりにめあてと振り返りというのがあります。さらに、それぞれの単元の振り返りとしたしまして、3ページの方に戻っていただけますでしょうか。一覧表になっているのですけども、こちらの方で各単元の振り返りができるようになっております。それから学年末の振り返りとしまして、73ページを御覧いただけますでしょうか。73ページには5年生のまとめ、そして、同じように6年生のまとめが129ページにも載っています。このように、めあてと振り返り、各単元の振り返り、そして、学年末のチェック欄というように、子どもたちが学習したことを振り返ったりする工夫があり、やはり、子どもたちが自分で主体的に無理なく学習を進めていく工夫がなされていると思います。このように、3ステップで段階的に構成されていることから子どもたちが学習の見通しを持って進めることができ、また、振り返ったりする問題解決的な学習を行うことが期待でき、家庭科で大事な実生活に活用できる力の育成につながっていると考えられます。続いて2点目について説明させていただきます。2点目の理由としまして、主体的、対話的で深い学びの表現に向けた工夫があるというところ。先ほどの調理のところ、14ページを見ていただいたと思うのですけども、問題解決に向けて各ステップで子どもたちは一体どんな学習をするのかということで、具体的に活動として示されています。活動では生活をよりよくするために周りの友達とか地域の人とか家族と交流して学習したことを生活に活用したり、また、学習中で調べたり、話し合ったり交流したりする活動が設けられておりまして、今、学習指導要領で大切にされている、主体的、対話的な学びにつながる活動が工夫されています。具体的には14ページにありますように、活動1の部分では話し合おうということがあります。それから、1ページめく

っていただきますと、ステップ2の所では活動2ということで考えようというのが左のページにありまして、続いて次のページ、調べよう、やってみよう、それから、ステップ3では深めようというように、どのような学習を進めていくのかということが子どもたちに見通しを持って学習を分かりやすく進めていくということになっています。そして、それらのことがやはり生活をよりよくしていくためということで、それが人との交流だったり学習したことを活用してその後話し合ったり、交流する場をもとに主体的、対話的な学びになっております。このようなステップの活動を深めようでは、最後に学習のまとめとして、ただ話し合ったり交流したりするだけではなく、友達とか家族、地域の人々に発表したり、発信したりするというような活動も含められておりまして、これは前の指導学習指導要領の、それから、今回の新学習指導要領でも重要視されております、言語活動の充実につながる活動が含まれていると思います。さらに、活動の部分だけではなく、家庭科は大変実習が多いので、実習後に「できたかな？」という項目があります。その項目とか、学年末の先ほど紹介させていただきました振り返りがありまして、自己評価を行うことができ、今、学習指導要領で出されております、主体的、対話的な学びにつながる活動が工夫されていると言えます。次に3点目ですけども、3点目は調査項目の使用上の便宜について説明させていただきたいと思います。まず、使用上の便宜として特徴とされるのが、資料が大変豊富であるということです。巻末の資料につきまして、他社の開隆堂と比べまして選定案となった発行者の東京書籍では15ページもあり、資料が大変豊富です。資料の巻末の方です、135ページを開けていただけますでしょうか。後半は全部巻末の資料となっています。東京書籍のほうは15ページあります。開隆堂は9ページ位なのですけども。135ページで御紹介させていただきたいのは、写真が用具の使い方が分かるように、子どもの手の大きさに合わせて実物大の写真になっています。運針のところなのですけども、上のところは右利き用、下のところは左利き用ということで、子どもたちが布をどのように持って、どのように指ぬきを挟んで押して、どのように針を進めていったらいいのかということ、実際にこの教科書の上に手を置いて見ながら学習を進めるということが大変分かりやすくなっています。あともう一つ、東京書籍につきましては、写真とイラストと一緒に組み合わせができていますということです。その他にも少しページを戻っていただきますと、131ページで今度は包丁の使い方が載っております。これについても右利き用、左利き用がありまして、これも実際の子どもの手の大きさに合わせた切る物の握り方、それから包丁の握り方、それからもう1ページめくっていただきますと、今度は包丁で皮をむく、芽を取るということで、実際にどのように切るもの、皮をむくものを持って、どのように包丁を扱ったらいいかということ

が大変分かりやすくなっていると思います。資料につきましては巻末資料以外でも49ページには出汁の取り方ということで資料が載っております。また、90ページの布の性質を比べる方法があるのですが、やはり、このような資料につきましては、発展的な学習につながる学習と考えられ、それは子どもたちの興味関心を促す資料になるかと考えられます。最後に4点目です。先ほども巻末の資料を紹介しながら説明させていただきましたが、資料が大変分かりやすいということです。これも大きなポイントになるかなと思うのですが、やはり、用具の使い方が右利き左利きの両者が表示されていて写真が実物大であること。そして、イラストを組み合わせた表記であること。ということは分かりやすく、家庭科の始まりになりますので、基礎的基本的な技能が身に付けられるように配慮されていると思います。そして、資料につきましては、最初に御説明させていただきました学習の流れ、ステップのところ、円を三分割にした図なのですが、やはり、見通しを持ちやすい図になっておりまして、特別な配慮を必要とする児童だけではなくて、どの子にとっても見通しを持ちやすく、分かりやすいという工夫配慮がなされていると思います。主に4点でございます。最後に付け加えさせていただけるならば、教科書のサイズなのですが、東京書籍はA4版になっております。開隆堂は少し小さくなっております。やはり、このA4版というのは子どもたちにとって定番にある分、情報量も多いですし使い慣れている大きさということで使いやすいのではないかなと思います。それから、中に資料、写真のことも伝えさせていただきましたが、やはり、グローバル化に対応しているということ、男女の役割分担が固定化されていないとか、細かいところにも配慮されております。以上主な理由として4つ御説明させていただきました。

教育長 ありがとうございます、先程の報告につきまして御質問等ございましたら。

上島委員 QRコードが他の教科ではかなり選定の理由の1つになっているのですが、東京書籍にはQRコードはある。

小林校長 あります。

上島委員 あるけど少ないですね。開隆堂はかなり多いです。そのあたりについての議論はされましたか。

小林校長 させていただきました。実は開隆堂につきましてはQRコードが随



所にあつて、そして、それぞれの単元に、単元の内容ごとにたくさん資料がありました。確かにその分は充実していると思ったのですが、東京書籍にはDマークということで同じようにQRコードが付いています。開隆堂に比べて、これは一覧表の評価が少なくなるところなのですけども、実際に授業で使用するにあたって、開隆堂ほどのQRコードは必要でないかと判断しました。東京書籍のDマークの情報量だけで充分ではないかと考えました。それともう一つ、家庭科につきましては、情動的な視覚の部分は大事なんですけども、ある程度そういう情報の量を見た上で、子どもたちが先ほど活動という言い方をさせていただきましたが、実際に体験をする、実習をするということがやはり重きになってくると思います。その実際に身に付けたことが生活に活かしていくことが大事なので、家庭科としましてはこの東京書籍のDマークに載っている情報量で充分ではないかと思いました。確かに開隆堂のQRコードが優れておりました。しかし、東京書籍のDマークで十分指導に足りるものであると思われまして、子どもの学習も充実するものと判断いたしました。

上島委員 視覚よりも実践だと。そのことが大事だと。実践を2回やらせる方が大切だという考え方ですね。

小林校長 まるっきりないわけではありませんので。最低限必要な分はきちんと東京書籍にもあると判断しました。

教育長 その他に御質問ありましたらよろしくお願いします。

滝澤委員 先ほどQRコードの話がありましたけど、やはり、この教科の特徴として実習ということがメインになってくると、QRコードを見ながら教えるというよりも、この教科書の、例えば、運針の仕方とか、ハサミの切り方とか、その方が授業を進める上では教えやすいという理解でよろしいですか。

小林校長 はい。写真のところで説明させていただきましたけども、東京書籍は実物大になっています。実際に手を置いて分かりやすいのです。子どもがすぐ使えて分かりやすいというのが1番大事なかなと思いましたので、東京書籍にさせていただきました。

滝澤委員 版も大きいしページ数も多いので、情報量はこちらの方が多。見やすい。その不足分をQRコードでこっちは補っているような気がします。だけど、実際に使いやすいのはこういう目で見ると、同じ手の大きさとかいう点

でいくとこっちの方がやはり使いやすいということですね。

小林校長 一番は使いやすくて分かりやすくてということだと思います。

教育長 よろしいでしょうか。その他いかがでしょうか。それではないようですので、調査員代表の小林先生御苦勞様でした。退席していただきたいと思えます。ありがとうございました。

それでは家庭科の教科書採択につきまして御意見ございましたらお願いいたします。

富田委員 説明も非常に分かりやすかったですし、おっしゃる通りだと思えましたので東京書籍でよいのではないかと思います。

教育長 その他いかがでしょうか。それではないようですので家庭科につきましては東京書籍の新しい家庭を令和2年度使用小学校用の教科書として採択してよろしいでしょうか。それでは教育委員会といたしまして、東京書籍の新しい家庭を令和2年度使用小学校用の教科書として採択することを決定いたします。続きまして道徳の方に入りますのでしばらくお待ちください。

#### 道徳

教育長 それでは道徳の方に入りたいと思えますので、まずは、採択候補の報告を代表の山口先生の方からお願いいたします。

山口校長 道徳ですが、8社あることで、まず、読むこと自体にずいぶん時間がかかりました。それぞれの会社とも題材の工夫ということで、昔から取り扱われているもの、現代のいじめや情報モラル、災害防災教育そういったものも入っておりますし、スポーツ選手や漫画家など著名人の生き方から学ぶというあたりもどの教科書にもしっかりと出ております。また、形式の工夫ということで、単に文章表現だけではなく、写真やイラスト、ゲーム、表やグラフ、そういったものを取り入れてという工夫もありました。指導のしやすさということでQRコードを使用するとか、補助教材の部分ということにもずいぶん配慮があるように思いました。その中で、なぜこの学研教育みらいを選んだかという、最も私たちが大切にしたい、考えて議論する、子どもが主体的、対話的に深く学んでいくことを実現するにはこの学研みらいが一番いいのではないかと感じました。教材を通して学んだことをいかに自分のことに落とし込んで、自分の生き方を豊かにしていくかというところで学研を選んだということにな

ります。選定案の中に書かせてもらいました、1番の1つ目なのですが、考え議論するふさわしい教材が選ばれているということで、まず、学び方のページ、深めよう、つなげよう、やってみよう、広げようというのが、どの学年にも出ております。目次にもやってみようとか、深めようと示されていますが、そこで子どもたちに体験的なこと、身近なことを一緒に考えるというようなページが適宜設けられているということになっています。全学年で表紙をめくった最初のページに、ダイナミックな写真、心を耕す言葉によるイントロダクションが、全ての学年の見開きのところに印象的な写真が用いられています。他の教科書にはない特徴です。ここで自然とか、子どもたちが関心を引き合うようなことを出してくるというあたりで、子どもの気持ちを引く。その後、目次があって、あすか、みらいというキャラクターがいるのですが、1年生から6年生まで連続した形で出ていますので、それぞれその子が成長に合わせた形で問いかけを出してくれるということで、非常に親しみやすい工夫がされています。1つめくっていきますと、1年生の6ページですね、4つの領域のことが自分のこととどういう関係で書かれたものがあるという、子どもたちにとってはとても分かりやすい、私とどんなテーマで勉強するのかという領域分けが工夫されています。そして、自分のことを書き込もうという最初の段階から子どもたちを引き込む工夫がされています。次に、あなたと私、自分のことということで評価が書かれていきますが、例えば、1年生の26ページに「きんのおの、ぎんのおの」という作品があります。他の教科書は教材でどんなことを勉強しようとかテーマが書かれています。すると、子どもたちはそのことについて勉強するのだという見通しが持ちやすいという反面、こんな答えをすればいいのだということが分かってしまうということがあります。「きんのおの、ぎんのおの」の最終部分、学研の場合だけなのですが、28ページ、きこり、お前が落とした斧はこれか、というような形で、文章を最後まで言っていない。途中で切っているわけです。ここから子どもたちに考えようというような投げかけがしてあります。これは代表的な例なのですが、学研は子どもたちにこうやって考えさせよう、議論させようということが、随所に感じられるという意味でいいと思いました。学研は命の教育ということで、防災関係のことも非常に大切に扱っております。他の教科書と違うのは、東日本大震災、阪神大震災、熊本それと中越地震。そのような各地の防災のことを取り上げて子ども目線で考える、問題提起をされておりますし、情報モラルも全学年で取り上げられています。他社の本では3年生からということがあるわけですが、そうではなくて1年生の段階から情報モラルも取り上げている。3年生、4年生、5年生、6年生ではパソコンのインターネットのことや、スマホのこと、LINEの画面が出てきてというように、子どもに直接で分かりやすい題材になっており

ます。あと、1年生で申し上げますと、1年生は生活科が始まるのですが、生活科と道徳が混在したような形で最初は始まるわけです。ここが学研の場合も最初はそうなのですが、3番目から「かぼちゃのつる」という教材を持ち込んで、生活科とはまた違う、しっかりとした道徳の視点で取り上げられているといった点もいいかなと思いました。A4のフルカラーのサイズで、とても子どもたちが親しみやすく、例えば、1年生は「みんなあかちゃんだったよ」という題材は、赤ちゃんの等身大の写真になっています。非常に子どもたちが身近にきれいな写真から感じられるという工夫がされています。他の会社でも写真はありますが、等身大でという工夫はここだけです。もう一点、特別支援の観点から素晴らしいなと思ったのが、学研は全部見開き、スタートが右のページからということで、統一されています。他の会社はページの都合でどうしても統一されていないのですが、学研だけはそれがきっちり守られておりました。他の教科書でいいなと思うところもあったのですが、まず、私たちが議論した中で、分冊、ノートをどう扱うかということがあります。ブックインノートみたいな形で使えるものが2種類。それと2冊全く別で使うものとあります。このタイプは小学校1年生、2年生にするとやはり扱いにくいです。机の上でこうやって広げてというのはしんどいというのがあります。管理もえらくなってきました。こうやって中に入れるのは使いやすいということですが、次は、ノート型の分冊の中身の部分で考えました。3社あるのですが、3社ともこの分冊にまた新しい内容が入ってくるのです。そうすると、教科書を教えて、さらに分冊ノートを教えて、またそこに関連のことを教えなければならない。そこに書くということが入ってくると、子どもたちが1時間の中で、学習の焦点が分かりにくくなるということを思いました。基本的には1冊でいいのかなと思っています。中学校がノートを使っていますが、その点についても議論しましたけど、発達段階が違うということを思っています。特に、低学年では、文中の作品を劇でやってみようとか、もう一回それをみんなで演じながらロールプレイをしてみようとなるのですが、そこで意見を聞き合うとか。それとか絵に表そうとか。単に書くという前に、子どもたちが体感できるということが大事になってくると、そういうことを私たちは必要じゃないかなと思いました。書くということについては通常の授業でやっているめあてと振り返りでいいかなと思っています。1時間で学習したことを、子どもがこんなことを自分の生活と合わせて知りましたとか、感じたというような表現ができればいいかと思っています。前回の学研の教科書と、今回の学研の教科書で、どう変わってきたかということなのですが、先ほど申し上げたこのキャラクターがずっと6年間通じてと登場してくるという工夫があると言いましたが、一つ一つのタイトル等が大きくなっています。とても優しくなっています。それとどの教材にも、

後ろに考えてみようという項目があるのですが、上段と下段というように新しい教科書は工夫されています。2列に並べて1、2となったわけです。今回の方が、何が問われているかということ視覚的に分かりやすい、そんな工夫がされておりまして。こんなことを考える中で、子どもが議論しやすいところを中心に考えました。光村も考えたのですが、非常に文章量が多かったです。光村の1年生の教科書を見ていただけたらいいかと思うのですが、非常に分量が多くなってくることがあります。よい教材もあるし、写真も素敵なのですが、分量の比較もしました。学研が1番考えて議論する配慮がなされていると思ったので判断いたしました。長くなりましたが以上です。

教育長 ありがとうございます。先程の報告を聞いていただきまして御質問等ございましたらお願いいたします。考え議論する道徳ということ重視したということですけど。

上島委員 前回は考えることが必要だと。読んで終わるのではなくて、考えさせることが大事だということが決まったのですね。

山口校長 もう一点だけよろしいでしょうか。津市ということで、この吉田沙保里さん、やはり、すごい人なのだと思いました。8社中7社ぐらい、多かれ少なかれ吉田沙保里さんが出てくるのですが、こうやって大きく扱われている。4年生のトップに出てくるのが学研だったのです。地域の人ということで、非常にいいよねという話を調査員の中でしてございました。

教育長 報告は学研がなぜいいのかということに絞って端的におっしゃっていただきましたので、8社ありますので、一つ一つはなかなか時間はありませんので、もし、他社のことでも何かありましたら。

富田委員 先ほど別冊ノートの話が出ましたが、これは中学校の道徳の教科書ということもありましたが、3社あるということで、3社同じように1学年から6学年まで、全て別冊ノートがだいたい同じ分量で付いているということですか。

山口校長 それぞれ特徴があるのですが、一個一個説明させてもらったほうがよろしいですか。

富田委員 いいです。6年間で低学年、中学年、高学年という学年での発達を

踏まえて、別冊ノートの扱いの内容に工夫が見られるということを感じられなかったのですが。

山口校長 どの教科書にも QR コードとかが付いていて、ワークシートがあります。それで、先生がこの授業でどこを1番教えたいかというところだけを書くものが欲しいのという話をしました。いろいろなものがあると、あれもこれもとつたくなってきて、集中力の弱いお子さんなんかは特に気が散ってしまいますので、焦点を絞った提示をして、そこで考えて自分の生活に落とし込むということを1番の目標にした時に、ノートがなくてもいいのではないかと。そこに到達するまでの手立てとしては劇化するとか、ロールプレイをするとかそういう工夫がいいと判断しました。

上島委員 先ほど発達段階でいうと中学校はノートを使った方がいいということだったと思います。発達段階から見て、中学生にとってノートが必要というわけではなく、それこそ中学生になったら自分の考えをグループの中で話し合える力がないといけない。小学校の段階だったら、例えば、メモをとるなど、いきなり自分の言葉では話せないで、だんだんそれができるのだったらいいけど。そのような活動は必要で。だから、中学校になったらノートを使うという問題ではなくて、より深めようとか人の意見を聞くとか、書いて終わりではなくて、話し合いをさせるということが大事ではないかと考えるのですけども。

山口校長 その中でペアとかグループとかを取り入れて、授業を組み立てていると思います。

教育長 その他いかがでしょうか。それではないようですので、調査員代表の山口先生、大変お世話をおかけしました。ありがとうございました。退席していただきたいと思います。

それでは道徳の教科書の採択について御意見ございましたらお願いいたします。今使っている教科書は学研。まだ使用して間もないわけですけども。特に御意見がないようですので、道徳につきましては学研の新・みんなの道徳を令和2年度使用小学校用教科書として採択することを決定してよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは教育委員会といたしまして学研の新・みんなの道徳を令和2年度使用小学校用教科書として採択することを決定いたします。本日は以上になりますが、この続きは26日の月曜日に行いますのでよろしくお願いいたします。御苦勞様でございました。

上島委員

最終日に、全教科の決定した教科書の一覧をもらえますか。

事務局

はい。

教育長

これにて終了させていただきます。御苦勞様でございました。

8月26日（月）

社会及び地図

教育長 時間になりましたので、引き続き教科書採択に関わる議案第42号の御審議をお願いしたいと思います。

それでは本日、社会と地図の御審議の方からお願いしたいと思います。それでは、採択候補の報告を調査員代表の黒田先生の方からお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

黒田校長 よろしくお願いいたします。私の方からは社会及び地図の調査結果を報告いたします。まず、社会は3社の教科書見本を学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、津市の子どもたちにとって日本文教出版の教科書が令和2年度に使用する教科書として最もふさわしいと評価いたしました。その理由をお手元の選定案の中から3点に絞って御説明させていただきます。まず、1点目ですが、選定案の上から4つ目、津市の子どもたち児童が実際に見学できる位置にあり、身近に感じられる学習対象が複数取り上げられており、意欲的、主体的な探求が期待できるという点です。一例を紹介いたしますと、5年生の教科書142ページから157ページ。16ページにわたります。自動車工業の盛んな地域として、津市の隣の鈴鹿市にございます、本田技研工業鈴鹿製作所が取り上げられております。その中でも148、149ページを御覧いただけますでしょうか。詳しく説明される中で、その2ページでは従事の勤務シフトとか、見学ではなかなか分からない働く工夫や、改善について話し合うようす、作業の事前や事後のようすも紹介されております。子どもたちは見学と共に、より実感を持って、あるいは、ここを見学しない子どもたちにとっても意欲的で主体的な探求を行うことが期待できます。また、身近な地域を学習対象として取り上げられているだけではなくて、157ページには紙面上で登場人物がその工場見学の気づきや発見、あるいは、賛同という形で学習や探求を

行いながら、社会的事象の見方、考え方を働かせる、そのような紙面構成が随所に見られます。これもこの教科書の評価できる点の1つでございます。他に身近な地域として取り上げられておりますのは、5年生の46から54ページで輪中が、そして、238から241ページでは四日市公害が環境と私たちの下で取り上げられております。理由の2つ目でございますが、選定案の上から6つ目、津市も震源の範囲となる予想もございます。南海トラフ巨大地震に関する記述が掲載されているということです。同じく5年生の269ページ、ここでは自然災害から人々を守るで、南海トラフ巨大地震の説明が特設されて詳しく記述されているとともに、内閣府の資料として地震の震源範囲に本市が含まれる地図が掲載されております。社会科学習だけではなく、防災教育と関連した学習での活用を期待できるところでございます。最後、理由の3つ目といたしましては、選定案のその他の所の1つ目に示しました、人権に関する知的理解が社会科においても促進される。津市は人権尊重都市を宣言しており、条例も制定されているところですが、本市の中でさまざまな人権課題を詳しく取り上げているというところでございます。これも具体例で説明いたします。6年生の教科書190ページ、191ページを御覧いただけますでしょうか。ここでは、大正時代、よりよく生きる権利を求めて、というところで、世の中の様子や人物の働きなどに着目して、歴史を学ぶ意味を考えるために、大正時代の女性の自由と権利の拡大、左側に平塚らいてうについてなど、自らの力で差別をなくす運動を具体的に、そして、詳しく取り上げられております。この教科書においては他の歴史学習より、あるいは、公民学習においても人権に関する知的理解が促進できるような内容が、具体的に詳しくいくつも取り上げられていることもこの教科書の特徴でございます。以上、3点に絞って御説明申し上げましたが、見方、考え方のコーナーというのも全編にわたって設けられ、空間、時間、関係の3つの視点で社会的事象を働かせる紙面構成がされている点や、北方領土、竹島、尖閣諸島は日本固有の領土であることや、拉致問題についても触れている部分なども勘案いたしまして、津市の子どもたちにとって日本文教出版の教科書は令和2年度に使用する教科書として最もふさわしいと評価いたしました。以上が社会に関する報告でございます。

続いて地図の説明に移らせていただきます。地図は2社の教科書見本を学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、本市の子どもたちにとって帝国の教科書が最もふさわしいと評価いたしました。その理由を3点で御説明させていただきます。選定案の上から4つ目でございます。巻頭から地図の約束、地図帳の使い方の項を設けて、親しみやすい漫画を用いて説明しているということです。これまで地図帳は4年生で給与されておりました。今回からは3年生となりました。もう1社の方は2ページで地図帳の説明をしているのに対しまして、



この帝国の地図は地図活用能力を高められるように10ページを割り、地図の必要性や重要性を示し、押さえるべき地図の約束を見つけられるようにしている点が評価できます。理由の2点目としましては選定案の上から2つ目でございます。地図マスターへの道として自学自習で地図帳活用のスキル、社会科の知識や見方考え方が身に付けさせられることが期待できるという点です。地図帳の18ページに地図マスターへの道という説明があるのですが、具体例では帝国の50ページを御覧いただきますでしょうか。ここには京都中心部の市街地図が載せてありますが、ここも津市の子どもたちが多く修学旅行で訪れる先であり、このような見やすいイラストは修学旅行の事前事後の学習においても有益であるところです。その右下に地図マスターへの道ということで、レベル1、レベル2と段階を変えて地図と写真を関連付けながら、主体的な学びを促すための発問を掲載し、資料活用能力を高め、主体的な学びを伸ばせるような工夫がされております。1つの問題を解くと、○を塗りつぶせるような表が117ページにありまして、小学校だけではなくて以後の学校生活を含めて生涯にわたって地図帳を活用し、幅広い知識と教養を身に付ける、そういう素地を養うことが期待できるものとなっております。地図に関します理由の3点目、最後でございますが、選定案の1つ目の6、防災意識を高め、自分達の住む地域の防災についての自発的・自主的な学習が期待できる。そして、3の2つ目、過去の災害事例や災害を防ぐ工夫を掲載し、主体的に防災意識を高められることが期待できる点でございます。お手元の地図帳91から94ページでございます。地図だけではなく、ここでは日本の自然災害と防災ということで、日本で起きる自然災害や防災、減災に取り組む人々の努力、そして、94ページには防災マップの具体的な作り方が学べ、地図学習においても主体的な防災意識の向上が期待できる。資料としての活用価値も高いものとなっております。他にも全編を通しまして、三重県及び津市を含む各地の歴史的建造物、伝統工業、伝統的工芸品、自然等がイラストや絵記号で特徴的に掲載されていることなども勘案いたしまして、津市の子どもたちにとって帝国の教科書が来年度使用する教科書として最もふさわしいと評価いたしました。以上でございます。

教育長 ありがとうございます。社会と地図両方まとめて説明をしていただきましたが、ただいまの報告につきまして御質問等ございましたらお願いいたします。

富田委員 社会の教科書の方なのですが、先程の御説明の中では、特に、内容面についての話が多かったように思ったのですが、日本文教出版で見やすさとか使いやすさという点では、他の教科書と対してよさがあるのでしょうか。

か。

黒田校長 様式1の方でも御説明させていただいているのですが、子どもたちが社会的事象に対する見方、考え方を深められるようなコーナーが設けられている点。そして、紙面上の登場人物がいろいろつぶやく中でそういう学び方、気づきができるのだということを、全編を通じて子どもたちが学べる点など学習内容についても充分深められる紙面構成となっております。

教育長 字の見やすさとか、表とか、そのあたりのことは。

黒田校長 2の使用上の便宜のところでも示しましたが、3年生から5年生の教科書においては、地図上の地名を記載して地理的な視点で学習でき、6年生では索引が人名、地名、あるいは、事柄別の索引になっていて非常に検索しやすくなっている点。さらに、3年生4年生で地球儀を活用するという点も関連付けながら配列されている点。3年生から始まる教科ということで、3年生の巻頭のところで社会科への学習へようこそ、ということで、生活科で培った学習を生かしながら、正しい評価、社会科が始まることに期待が持たせられる紙面構成となっております。さらに、ユニバーサルデザインを取り入れたフォント、あるいは、グラフは色調や色の組み合わせについても識別しやすい配慮がなされております。

教育長 よろしいでしょうか。

上島委員 社会で一番大事にされたのは、地元のことがかなり掲載されているということと、津市の人権教育を踏まえられていること。現実の学校の動きの中でこの教科書が一番合っていると。そのような結論でよろしいですか。

黒田校長 そうです。津市の子どもたちに有益な教科書だと評価をいたしました。

上島委員 地図も含めて。京都に修学旅行に行くことも多いのでということもありましたので。

教育長 その他にいかがでしょうか。

滝澤委員 これ以外に副教材みたいなものは何か使われるのですか。

黒田校長 津市の教育委員会の方でいつも作成されてきました、「わたしたちの津市」という副読本を併用して活用し、どの地域の子どもたちにとっても津市のことが学びやすくなっています。

滝澤委員 基本的に津市のことが副教材になるのですね。地域のこととか、修学旅行関連とかが日文に入っていることをお伺いしたのですが。鈴鹿工場とかその辺は非常に勉強になるし頭に入りやすいし、そういう視点でお選びいただいているということが分かりましたので。

上島委員 地図も変わってない？

事務局 これまでも帝国。

教育長 よろしいでしょうか、御質問がないようですので、調査員代表の黒田先生、本当にお世話かけました。退席していただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは教科書採択について御意見お願いしたいと思います。社会と地図まとめて協議を行いたいと思います。どちらでも結構ですので何か御意見等ございましたら。

滝澤委員 どの教科書も全て見やすく、写真や図がかなり工夫されていて、気づきや自主的な勉強に役立てるようなことがありますし、めあてやいろいろな工夫がされているので、遜色ないという感じがいたしますが、御説明にあつたように、身近な教材として使えるものが入っているという観点では、やはり日文。それと継続性という点でも日文。先生がとても教えやすいかなという気がいたしますので。地図も同様でございます。賛成。

上島委員 県内見たらほとんど日文なのです。全国的には日文が多いのだろうか。たまたま三重県の内容がたくさん載っているから日文なのか。

教育研究支援課長（兼）授業改善担当副参事 全国の傾向は調べないと分かりません。

教育研究支援担当参事 日文は先ほど黒田校長がおっしゃってみえたように、教科書によって扱っている地域が違う。ある業者は九州の方の工場とかを中心

に扱っているというがあるので、そこら辺のところで採択される場合があるか分かりませんが、全体的にどうなっているかは分かりません。

滝澤委員 東京書籍は2冊になっていて、それが使いやすいのか使いにくいのかというところがあるのですけども、1冊の方がいいのですかね。

教育研究支援担当参事 子たちが持ってくるのに重たいというのはあるかもしれませんが、教える側からすると1冊になっていてある程度見通しを持って教えた方が教えやすいし、子どもたちも下にまたいでいると見せられない時があるのですが、1冊になっているときかのぼってとか振り返ってとかということができるので、教科書は学年で1冊の方が使いやすいのではないかと思います。

上島委員 中学校だったらはっきり歴史の時間とか政治経済とか分けるのだが、小学校の場合、社会の中で歴史も含めて、いろいろな絡みの中で社会を教えているのですか。そこがよく分からないので。

教育研究支援担当参事 この東書の教科書を見ていただくと分かっていただけると思うのですけど。例えば、6年生ですと、歴史と国際編と政治というように分かれています。今までですと歴史があって、政治経済があって国際的などという流れになっていたので、1冊になっている場合、1番最初に政治経済があり、歴史が来ていて国際と言う流れに変わってきている状況があります。ある程度分野ごとに分かれていますけども。ただ、はっきりと切れるといったものではないので、歴史をやりながらも現在のところ話をしたりとか、逆もあったりもしますので、小学校の場合は1冊で行ったり来たりできる方がいいのではないかなと思います。

上島委員 そうでしょうね。社会というのは、どのようなものかということを含めて全体的に把握する。小学校の段階で必要としている。

中村委員 議会で北方領土のところで、日本固有の表現について質問があったと思うのですが。いずれも表記しているのですが、固有のという表現が抜けていたり、日本の領土と言う表現にとどまっていたりするというのがありますが、固有の領土ということに関して教育長の取り扱いの見解性に支障がないのか、ということはいかがでしょう。

教育長 固有の領土というのは、議会でも質問がございましたが、学習指導要

領の中でもはっきりと日本固有の領土というようなことで、北方領土、尖閣諸島、竹島も教えるとなっておりますので、それをもとに教科書が作られております。ただ、この表現については固有の領土とはっきり書いてある場合と、もともとの領土とかそのような言い方をしている教科書も以前もあったと思います。

中村委員 特段その支障はないということでしょうか。

教育長 はい。

教育研究支援担当参事 1社だけ日本の領土と固有がなかったのです。後は固有が入っていました。日文は固有の領土です。

教育長 よろしいでしょうか。御意見がないようですので、社会につきましては、日本文教出版の小学社会、地図につきましては帝国書院の楽しく学ぶ小学生の地図帳を令和2年度使用小学校用教科書として採択するというので決定してよろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは、津市教育委員会として社会は日本文教出版、地図につきましては帝国書院を令和2年度使用小学校用教科書として採択する事に決定いたします。続きまして算数についての審議をお願いします

算数

教育長 それでは、調査員代表の川本先生に来ていただきましたので、算数の採択候補の報告をお願いしたいと思います。

川本校長 6社の教科書見本について学習指導要領の趣旨に基づきまして協議した結果、東京書籍の新しい算数が最も適切な教科書であると評価いたしました。その理由について説明をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。今回学習指導要領の改訂で、小学校の算数科の目標を、大きく知識、技能、思考力、判断力、表現力、学びに向かう人間力の6つの柱に基づいて示されているわけですが、その中で学びに向かう力ということで、数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返って、よりよく問題解決をしようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用する態度を養うというところがありまして、従来の知識技能等に加えまして、各社を見てきました。選定案の方を御覧いただくと、東京書籍4年生の上、1年生の教科書、こちらを御準備いただけますでしょうか。この2冊で説明をしたいと思います。まず、

先程申し上げた新しい学習指導要領の狙いにどのように対応しているかということで御説明申し上げます。選定案の1の学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫というところなのですが、東京書籍の教科書、数学的活動を分かりやすく可視化した今日の深い学びが各学年に3カ所設けられており、教材に即した思考や表現の過程が丁寧に表されています。4年生上の63ページを御覧ください。角度の勉強のところ、求め方の計画を立てましょう、180度より大きな角度の測り方を考えよう、右端のところの問題をつかもうということで、どんな問題かな、どのように考えれば解決できるかなとか、子どもたちが算数の課題を解決していくための課題であるとか、どんな道筋で考えていけばいいのかというのを各学年で3箇所程度、子どもが学習していくにあたってこのように学習を進めていけばいいのだなということがよく分かり、自分でも進めていくことができるように丁寧に表されています。さらに、低学年から発達段階を考慮して、図や表、式などの数学的な表現を用いた考えを提示し、算数の特質を生かした言語活動の例として示してあります。ノート作りとノートの活用、算数の授業で子どもたちがどのようにノートを作ったらいいかという点が非常に大事なところであって、先程申し上げた64ページの続きで66ページ、67ページに各学年、それぞれの発達段階に応じたノートの作り方が示されていて、このように振り返る、このように自分の考えを書く、そういったことが書かれています。さらに、選定案では(3)になるのですが、ほぼ全てのページに数学的な考え方や見方が子どもの発言の形で掲載されています。ページをめくっていただきますと、いろいろなところに子どもの顔と吹き出しで、つぶやきが載っているところが多々ございます。子どもがどのように疑問を持って、どのように解決していったらいいのかヒントになるような、算数の活動を進めていくにあたっての配慮が多く掲載されています。それから、各授業は小学校ですと45分という単位で授業を行うのですが、例えば、4年生の上23ページを見ていただけますでしょうか。折れ線グラフのところなのですが、②番で葉っぱが2つ出てきて、前のページの折れ線グラフを見て、気温の測り方を詳しく調べましょうとあって、そこからその課題を解決するにあたって、折れ線グラフのどこに注目すればいいのか考えようとか、最後に課題があって、最後に下のほうに4つのクローバーがありまして、まとめというのがある。また、1番下に次の課題に発展するつぶやきが載っていると。このように、めあてを立てて振り返りをする。そういったことを行われるようになっていきます。それから、算数のよさに気づき、生活学習に活用しようというのが、例えば、4年生の教科書の130ページを見ていただきますと、つないでこう算数の目とありまして、実際の日常の生活の中で、概数、おおよその数を使って、大体全部でいくらぐらいになるか考えましょうと、学んだことを生活に

役立てるようなところがあります。こういうところで子どもたちの興味関心を高めるように工夫がされていることがございます。それから、使用上の便宜という大きな2番目のところなのですが、まず、他社と比べて1年生の教科書、小学校に入学したての子どもたちが初めて算数を勉強するにあたって、教科書、ノート、いろいろなものを使ってとなかなかハードルが高くて。実はこの教科書1年生は大きな版になっていて、これを開いて上に出すと、これが教科書とノートを兼ねていて。なおかつ、開いたらペタンと。他の学年の教科書は真ん中が山になるのですけども、1年生の最初は見開きになっていて、ここに実際におはじきを置いて活動することができる。そういった小学校に入学したての子どもに対する配慮がなされています。これは非常に他社と違うところです。それから、全体を通してユニバーサルデザインに配慮された字体を使っております。他の教科書と見比べた時、全体的に使用する色数とか、淡い配色とか、記号がシンプルであること。要はいろんな記号があると、そういうところばかりに目がいつてしまうこともあり、学習に集中しやすいというような配慮がされております。最後に、1-(4)なのですが、今算数で、学習指導要領全体でプログラミング教育をこれからやるというように言われていますけども、5、6年生に単元との関連性を持たせたプログラミングを体験しようというのがありまして、教科書会社独自のプログラミングを体験するコンテンツがインターネット上に準備されております。そのコンテンツがあるということは、インターネットにアクセスすれば、教育委員会の方で特別なソフトを準備しなくても、この教科書に沿ったプログラミング学習、それから、他のデジタルコンテンツと言いまして、パソコンの画面上とか大型テレビでどのように線を引いたらいいのかとか説明するための画面にもアクセスできる。これはこの教科書に豊富に準備されています。また、そのコンテンツにアクセスするためには、教科書を開いてもらった扉のところにURLとQRコードがあって、アクセスがしやすいという配慮もされています。このように、学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫、それから、使い勝手、その2つを総合的に見させていただきまして、この東京書籍が1番適切であると評価をしました。以上で説明を終わらせていただきます。

教育長 ありがとうございます。先程の報告につきまして御質問等ございましたらお願いいたします。

上島委員 1年生の説明で、各学校で数のお稽古の道具は持っていますね。あれは教科書に合わせたものなのか、それとも関係なく用意するのか、どちらですか。

川本校長 例えば、うちの学校は黄色ですけども、他社は青とかその程度の違いで、大体大きさ的にもこの教科書に置いて使っていけばうまく学習できると思います。

上島委員 東京書籍版の数のお稽古というものはないということですね。

川本校長 東京書籍がそれ専用に出しているかどうか分かりません。いろいろな教材会社がそれぞれこういうおはじきを出してしまっていて、どれを使っても学習ができるようになっています。

上島委員 津市では伝統的に使っているという教具はありますか。

川本校長 それぞれの学校で子どもたちの実態等を見ながら、教科書できちんと使えるものを選んで使っています。

教育長 その他にいかがでしょうか。現在も東京書籍ですね。

川本校長 そうです。

滝澤委員 1年生のこれは大きいですよ。ちょうど教材の大きさに合っているのかなという気がするのですが。おはじきを持ってきて並べようという時に。例えば、この上に重ねたら同じようにできるのかなとか、ノートとかプリントみたいなそんな使い方もできるのかなという気がしますけど。他のは小さいですよ。同じおはじきが出てきたとしても。だから、この上に並べるよりも、これはこれで見るとして、一緒にこれと同化して学んでいくというようなことはできない感じはしますが。これは今年に限ったことですか。前からこのように1年生の最初の方だけ大きくて、それが続いているわけですか。

川本校長 まず、実際に並べて使うことができるかという点についてですが、東京書籍には4ページのところに実際にしているようすがあって。まさに、おっしゃっていただいたようにこの上で開いて活動しているところ。他社の場合は小さな教科書でしていくと、教科書とは別のところで並べていくということになります。東京書籍の今回の工夫を改定に合わせて初めてしましたとなっております。



滝澤委員 他の出版社にはない画期的なことですか。

川本校長 そう私たちは考えました。

滝澤委員 やりやすいでしょうか。

川本校長 調査員は小学校の教員ですけど、これは本当にやりやすく、書き込みもわりと大きな字で書き込めるので、1年生の初めにはとてもいいということでした。

教育長 他にありますでしょうか。

中村委員 選定案に関係あるかは分かりませんが、目立ったのは教科書に書き込みするような欄が結構あるのですけども。私の頃には教科書を汚してはいけないとか、書き込みをしてはいけない雰囲気があったのですが、今はよろしいのですね。

川本校長 実際に書き込みしながら使っていきます。書き込みとノートとうまく組み合わせて行きながら。

教育長 いかがでしょうか。

上島委員 上と下に分かれている会社ありますよね。1年生でも。このことについて議論されました。東書は1つですけども。

川本校長 東京書籍については、最初の単元に配慮されて分かれているということです。他のところについて1年生で上と下に分かれているのは数社あります。話が出たのは分かれていると持ち運びの時、利便性としてはいいのかなという話がありました。内容的にもこういう分け方がいいのではないかという話も出ました。

富田委員 今の話とつながると思うのですけども、東京書籍は6年生だけが分冊でなくて1冊であるところもあって、これは中学校へのつながりを考慮してなのですか。

川本校長 6年生になりますと分かれることはないです。だから、そういう部

分はつながりという配慮はされています。それから、中学校に向けた学習なども含めて、トータルで1冊にして中学校への接続を考えられているのではないかと思います。

教育長 5年6年と1冊の教科書会社がありますね。東書は6年生だけですけども。啓林館とか。

川本校長 教育出版社もありますね。

教育長 そういう考えもある。高学年ですので。

上島委員 単なる中学校へのつながりとかそういうのではなくて。例えば、以前の学習を振り返るために、上下分かれていたら、下の学習の時に、上の教科書を持ってこようかということになるので。そういう意味も含めてではないですか。

川本校長 それも考えました。各社それぞれ目次の中に上下のつながりとか、単元のつながりとか、結構きめ細かく書かれていますので、そういう理由はあります。

教育長 その他にいかがでしょうか。

上島委員 算数の副教材というのは大体どこでも使っているのですか。

川本校長 補充的に学んだことを振り返るプリントとか、そういうのを使っています。

上島委員 個人のドリルとか。

川本校長 計算ドリルという基礎的なことを習熟する。それからプリントになっていて基礎とか応用を含めた小テストなども使います。

上島委員 例えば、東京書籍版のドリルとかはあるのですか。

川本校長 ある程度教科書に準拠した配列になっています。

教育長 他に御質問いかがでしょうか。それでは、ないようですので調査員代表の川本先生ありがとうございました。これで退出していただきたいと思いません。

それでは、算数についての教科書採択について御意見あればお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。今は、三重県は東書ですね。

富田委員 感想ですけど、実際、その東京書籍には最後の背表紙にあるような、そうした工夫が随所に施されていて、子どもたちの学びを深めていくのに使いやすい、よい教科書だなと感じました。これでよいのではないかなと思います。

滝澤委員 富田委員が言われたように、保護者の皆さんへというメッセージが大きくて見やすいですね。他の教科書会社にも最後のページにあるのですが、どれも小さいですね。保護者がこれをしっかり見ているかという。東書はしっかり、こういう環境で、こういう教育を目指しているということが分かりやすいと思います。それと記述の方法も丁寧だと思いますので東書でいいのではないかなと思います。

上島委員 質問で、時折保護者から言われるのは、私らの時と教え方が違うので、教えても子どもが怒ってくると。学校ではそのように教えてもらってないと。昔から、こういう形でこのように教えなさいというのは統一されているのですか。

教育研究支援担当参事 教え方は統一です。

上島委員 何を使ってしたら統一されますか。

教育研究支援担当参事 おはじきとか教材についてはいろいろな工夫があると思うのですが。親御さんが筆算の仕方が違うとよく言われることが多いと思うのですが、その辺は統一されています。

上島委員 昔はタイル式とかいろいろありましたね。今はそんなこと言いませんか。

教育研究支援課長（兼）授業改善担当副参事 言葉は算数用語として残っていますけども、それは教科書の中では、積極的に使っているところとそうではないところがあり、教材の取り扱いという部分では違いがあると思います。

教育研究支援担当参事 指導書の中にはそういう言葉として残っていますけど。教科書の中でそれがすごく強調されていることはないと思います。

教育長 その他御意見いかがでしょうか。それではないようですので、算数につきましては東京書籍、新しい算数を令和2年度使用小学校用教科書として採択することを決定してよろしいでしょうか。ありがとうございます。御異議がないようですので、教育委員会としましては、東京書籍新しい算数を令和2年度用小学校用教科書として採択することを決定いたします。

理科

教育長 原田先生に来ていただきましたので、理科の審議に移りたいと思います。それでは採択候補につきまして原田先生から御報告よろしくいたします。

原田校長 よろしくお願いいいたします。理科を担当させていただきました。様式2調査報告書（選定案）を御覧ください。5社の教科用図書見本本を調査検討させていただきました。その結果として、啓林館のわくわく理科が最も適切な教科書であると考えています。以下に理由を御説明させていただきます。啓林館の教科書、例えば、6年生の教科書を御覧ください。99ページを開けていただければと思います。水溶液のところですけど、まずは、学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫ということで、見ていただいております。フラッグアンドラインと言いますけど、子どもたちの思考の流れが非常に分かりやすいように書かれております。思考の流れをラインで、矢印ですとこのような流れで思考を進めていくフラッグです。教科書のポイントが、このフラッグアンドラインの使い方と表記の仕方で、啓林館が非常によく分かって優れていると考えました。これについては5社それぞれを比較させていただいて、色使いも含めて一番見やすかったと思いました。それから、6年生の啓林館を開いていただいて、101ページになります。理科で大事にしたこととして、調査員で何回も話し合ったこととして、やはり、生を見せたい。本物を見せたいということです。理科ですので本物の実験結果、観察結果を見せたいということをお話し合いました。例えば、理科室を使って実験、観察をするのですが、教科書の101ページ、QRコードに啓林館は非常に力を入れていて、これも5社全てデジタル教材を調査しました。その結果、啓林館はQRコードを読み込めばダイレクトにそのページに行きます。例えば、他の出版社ですと、その教科書の目次のページに行ってしまう、ダイレクトではないのです。今、大量採用の職員問題ということもニュースで取り上

げられていますけども、まだ授業そのものを勉強している若い教職員にとっても非常に使いやすい教科書だと思います。もう一つこれに付け加えて、これもいいなと意見が上がったのは、NHK が配信している NHK フォースクールというデジタル番組があります。ここにもダイレクトに飛べるように設定されています。さらに、オプションで別のページに飛べるように工夫されていて、そこをクリックすると、実際に動画が配信されているページに移れるようになっています。これも啓林館がいいと思った理由の1つです。それから、最後を御覧ください。奥付に近いところですが、学習指導要領で理科についてもプログラミング教育について扱うというように取り上げられました。これについて、啓林館の教科書は工夫がされていて、プログラミング用のシールというのが付属で最後のページについております。これは何回も剥がせるのです。それで何回も貼れるのです。ですから1回貼って、間違えたら終わっていくのではなくて、何回も剥がして貼って、剥がして貼ってというように、このツルツルのページを使って、プログラミングの授業ができる。これもなかなか工夫されているなと思います。ここまでしっかりと、教員が使いやすいように工夫されているということでいいと意見が出ました。それから、93ページに戻ってください。ここでは、はじめにということで、単元の導入のところで大きな質問を設定しています。塩酸を含むトイレ用洗剤。これも日常生活に戻れるということですが、理科の大事なところは実際の生活に戻るというところが特に大切な教育内容だと思いますので、これがはじめにということで子どもたちの単元の大きなめあてになっています。これに対応するのが単元の終わりですけど、110ページを御覧ください。ここに先程の93ページに相對する、復習、単元のまとめとして子どもたちが単元全体の振り返りを行い、分かったことを確認し、子どもたちの達成感も含めた振り返りができるという工夫がされていて非常に分かりやすくなっています。単元ごとのまとめ、教育内容、教科内容のまとめが非常に考えられていると思いました。あと1つ2つ御紹介させていただきます。今回5社を調査研究させていただきました。見ていただいてお分かりの通り、啓林館の教科書は小さくて軽くなっています。しかし、教育内容、教科内容については全て達成されています。子どもたちの負担が少ないように、小さくて薄く、軽くなっているように工夫されているのもいいという話が出ました。そして、109ページを御覧ください。ここにまとめノートがあります。先ほどもお話しさせていただいたように、めあてがあって振り返りがきちっとできるよう、このまとめノートは非常に分かりやすい、使いやすい。そして、支援が必要な子についても非常に分かりやすく使いやすいまとめノートになっています。これも理由の1つになりました。このまとめノートについても、御覧いただいておりますように QR コードが付いています。この QR コードを讀

み取ると動画が始まるのです。字を読むことが苦手な子についても、ここにアクセスすると、まとめノートを書いているページに飛びます。それもダイレクトに飛びます。論理的に段階に従って考える、思考するということが苦手な子も、外国につながる子にも、映像で非常に分かりやすく配慮されていて、啓林館がいいと思った次第です。全ての教科書を調べて、啓林館には津市の写真があって、子どもたちの興味関心をひくというところもありました。例えば、3年生の47ページには榊原にあります風力発電、物理分野ですね。風の勉強をするところで、風力発電の写真を載せてくれています。それから、地学になるのですが、川の流れの勉強する5年生の教科書107ページのところでは、香良洲町の三角州の写真を使っています。そして、写真だけではなく、啓林館の教科書については季節感が非常に三重県とマッチしているということです。啓林館の教科書がいいという意見が調査員中でも多かったのですが、東京書籍の教科書についてもいいという意見が時々出ました。例えば、啓林館に比べて東京書籍は1番初めに説明した思考の過程が分かりやすいという観点でいうと、甲乙つけがたいという話が調査員の中でも出ました。先ほど説明した、単元の始めと単元の終わりで質問をして、子どもたちに振り返りをさせるということについては東京書籍も採用しています。東京書籍は少し、大きくて重たいのです。それから季節感も東京書籍よりも啓林館の方が三重県の季節感に合っています。これは理科には非常に大事です。三重県でたんぼぼが咲いている時にたんぼぼの話が出てこないと担任としては少し困るのです。結果としては啓林館の方がいいという話になりました。東京書籍の話もよく出たということで最後に御紹介をさせていただいて、報告に代えさせていただきます。以上です。

教育長 ありがとうございます。先程の報告につきまして御質問等ありましたらお願いいたします。

富田委員 理科に関しては、その実物を使った実験とか観察といった経験が諸外国に比べて日本は非常に少ないというデータがあったと思うのですが、それを今回はずいぶんQRコードなんかを通して、実際の映像でもってそうした体験の幅や深みを身につけるといふことだと思えます。しかし、かなりそうしたQRコードによった映像が充実してくると、逆にそのことによって、実体験がもういいかなというようになりはしないかなというところなのかもしれませんが、その辺はいかがなんでしょうか。

原田校長 例えば、教科書5社とも共通の方向として非常に親切な教科書になっています。現行のものよりも非常に親切。このブラックアンドラインについ

でも思考の過程が会話で全部書いてくれてあります。授業が上手な先生ほど使いにくいだろうなという意見も実は出ました。教師の質問も、子どもたちも、こうだよ、ああだよというのを書いてあるし、結果も結論も書いてくれてあります。これについて今の話については5社ともそうでしたので、比較のしようがありませんでした。その中でやはり若い教員が増えているということも考えれば、基本的には実験がしたい、子どもたちと一緒に観察がしたいという教員ばかりですので、それについては別に心配することではないのですけども。今回の調査研究で言えば、QRコードでそれが補助できちんとできるのかという軸で判断をさせていただきました。その結果、啓林館のQRコードが非常に使いやすい。特に、動画が多いということでもいいなということになりました。委員さんが言ってもらったように、生には勝てませんので、それは当然のことです。やはり、生の実験、生の観察も当然大事にしていく。これについては現場としてもこれからも大切にしていきたいなというように思っています。

富田委員 QRコードに関して言うと、啓林館は本当にたくさんあって、思考のプロセスに沿ったというところで導入から展開、まとめに至るまでポツポツといろいろあって。それはやはりダイレクトに飛ばなくては、そういう意味ではよくないという気もするのですけど。QRコードの中身についてももう少しお聞きしたいのですけども。中の展開とまとめという所のその辺の違いの工夫みたいなものはどのようにされているでしょうかね。

原田校長 補助教材ですので、教科書に沿って補助する内容です。教科書に沿った内容というのは当然なのですけども。まとめの段階のところで使いやすいというところで、授業者のニーズが高いという意見が多く出ました。まとめのところでやはり差が出てきますので、導入と最後のまとめのところで授業者が使いやすいという議論を重ねました。まとめノートに関する支援が必要な子、外国につながる子とか、段階に沿って思考していくことが少し苦手な特別な支援を要する子についても使いやすい。ああなって、こうなって、こうなるというのは動画でしか説明できない。啓林館しかなかったの。他の業者は静止画といますか、写真とかでしたので、啓林館がいいということになりました。

滝澤委員 单元ごとにQRコードがあるというのは今回が初めてですか。

原田校長 啓林館は前からです。

滝澤委員 そうすると実際の授業中で、どれぐらいの頻度で、このQRコード

を使った動画を授業で取り入れているのかというのは現状ではどんなものでしょうか。

原田校長 自分の前任校も含めた経験に基づくのですが、若い子はよく使います。デジタルについてハードルが低いのか、よく使います。津市は大型テレビが各教室に配置されていますので、ベテランも含めてデジタル教材をよく使っています。その中でも若い教員はさくさくと使っています。

滝澤委員 スマホで読んで、インターネット経由で写し出せるような形で。

原田校長 究極はそうですね。スマホは個人のもので、学校の備品につなげるとするのはそこにハードルがありますけども。タブレットも学校に配置していただいていますので。パソコンに強い職員は事前に1年分を取り込んでいます。学校のパソコンに取り込んで自由に使っています。今、富田委員からも御意見があったように、それに頼り過ぎないように職員会議とか校内研修で確認しています。やはり、生が1番いいということを確認しています。実際には、どんどんハードルは低くなっているような感覚は持っております。

滝澤委員 ハード面とか、教員のICTの能力によって見れる見れないという課題はあまりないですか。

原田校長 実際にはあります。苦手な人は若い人に助けてもらっています。自分のパソコンに取り込んでほしいと頼んで使おうとしているのですが、技能面で追いついていないというところが。

滝澤委員 実際にはあると。

上島委員 実験して失敗するのも理科だと思うのです。QRコードを見たらすぐ分かりますよね。僕は決してQRコードはいいと思わないのです。理科というのはやはり生でやってみて、上手いかなかったら、その結果として、上手いかなかったけど、QRコードで1回見ようかという使い方したらいいのだけども。いきなりQRコードだけでどんどん単元を終わらせてしまったら、これは本当に理科の意味がなくなってしまう。本当は担任が理科を教えるべきなのですが。専科が教える場合が多いのです。専門的な人はいろいろなことをやらせてあげたいという思いがあるのですが。QRコードがあると、それだけで済ましておこうということがないように、十分職員間でそのことを確



認しなくては。答えとしては間違いなく出てくるので、それが本当にいいのかと。そうではなくて、上手くいかなかったけども、実験してみたことの方がもっと大事なのではないかと。研究をこれから進めていかなかったら、どんどんQRコードで済ましてしまおうという教員が出てきたら怖いなど。若い教員はそれでやってしまったらだめだと思うのです。若い教員と年配の教員との、そこはうまく合わせていかなければいけないと思いますので。僕はあまりにも丁寧過ぎるのはどうかと思います。例えば、ノートのまとめ方までこうですよと決めつけるのは、その個人の考え方でまとめるということが一番まとめやすいという方法もあるはずだし。それをあまりにも細かくし過ぎてしまうと、子どもの主体性がなくなってしまうのではないかと。そのような面で教科書って難しいけども、あまり実験もこうなりますよ、こうですよ教科書を見たら分かるのもどうかと思います。理科は教科書がなくても1回考えてみようとか、1回実験してみようというのがあるって、それが1番いいと思う。あまりにも丁寧過ぎて、型にはめているのではないかとというのが気になるもので。その辺はどう考えていますか。

原田校長 全く自分も同じように思っています。最初の説明の時に1つ比較として御紹介させていただきましたが、5社とも丁寧な方向で進んでいます。これについては比較のしようがありませんので、皆同じ方向ですのでこれは調査の対象になりませんでした。今、上島委員に言っていただいた、少し丁寧過ぎるところもあって、劇の台本のように授業が進んでいく。それはおもしろくなさ過ぎるのではという意見も出ました。5社いろいろな特徴があったのですが、フラッグアンドラインは子どもに考えさせることを達成しようとしているという話になりました。会話まで書いてしまわれたら、授業ができなくなってしまふ。劇のようになってしまふ。おもしろみが何もない。言っていただいたように、実験は失敗して分かることもあるので、なぜ失敗したのだろうということからも学ぶことがたくさんあります。理科における実験とはなんだろうとか、観察の大切さとかそういうことは現場としても力を入れていかないといけないなと思っています。

中村委員 東京書籍と啓林館の写真を見せていただいたら、例えば、岩石の色なんかは違うのです。写真の色が。啓林館の砂岩の色は茶色系の色で、東京書籍は砂岩の色が白いのです。写真の質というものはどんな議論がありましたか

原田校長 先ほども、理科なので実物を大事にしたいということで、写真の使い方についても意見が交わされました。これはユニバーサルデザインの教科書

という観点からも啓林館がいいという意見です。砂岩については専門的にはなるのですが、どういふ砂が固まったかによつて色が違つてそれでいいのですけど、その色使いについては啓林館が、全てではないですけども、その写真だったらこっちの方がいいのではということがありました。1つ1つ選びだしたらきりがなないので、全体を通して啓林館の写真がユニバーサルデザインの観点からもいいというような意見が出ました。

滝澤委員 私も写真のことだったので分かりました。もう一つ、保護者の方へという最後のところに書いてあるメッセージですね。啓林館は各学年にこういうことに着目してとか、目標みたいなものが書いてあつて、学びのポイントみたいなものが書いてあつて。他の教科書は一緒の文章で保護者の方へというのが書いてあつて、一事が万事なんですけど、これ1つを見ても丁寧で分かりやすい紙面作りをしているのではないかという気がします。写真とか図も非常に分かりやすいなど見ていましたので、少し感想になってしましますが。

原田校長 この保護者の方へということについても意見が出ました。これも5社とも調査員が比較して、啓林館がここに書いてあるように、先生、保護者の方へと非常に明確に。そして、学年ごとに少しずつ変わつていきます。違う文言で具体的に。教科書会社によっては3年生から6年生まで一緒の文言が書いてある教科書もあるという意見も協議の中で出ました。啓林館については、先ほど御指摘いただいたように丁寧に作られています。

富田委員 先程のQRコードの映像の内容についても一度なのですが、先日小学校か中学校か忘れたのですが、理科の授業の中で、実験をしたら教科書と違つた結果が出たと。その時に最終的にまとめて子どもがどう書くかという時に、結果がこうだったにもかかわらず、教科書に書かれている通りを書いたというような事例を聞きまして。そのような意味で言うと、QRコードの映像の中身が、もし、実験の最初から、条件を整えてこういうものを使つていたら最終的にこうなるのだよ、必ずこうなるのだよというような、全部実験をしてる映像だとすると、多分、実験も実際にやる意味がないだろうし。仮に実験をやつたとしても映像の方が正しいのだと思つちゃうのではないかなということをお心配しましたので。そういうことで言うと映像というのが、例えば、啓林館の6年生の92ページからの水溶液の性質の場合でしたら、全部で4つほどQRコードがありますけど、どういふ内容なのかと思つて。その辺、全部実験が最初から最後まで見られるような映像が用意されているのかどうかということをお聞きしたいのですけど。

原田校長 QRコードの使い方、どういう考えで使うかということについては、当然管理職が授業を日々参観しながら、これから話をしていかなければならないと思っています。一にも二にも、やはり教員、授業者の教材研究の質にこれからも、今までもそうですけども関わってくる。教材研究が浅いと、答えのことしか授業者も勉強していかない。授業者に話が振られると不安、心配なのでコントロールしたがるのですね。教材研究が深まれば深まるほど、そういう結果が出る。赤くならないといけないのに透明になる。無色のままだったということも、なんで無色のままなのかということも、教材研究をしている授業者なら捌けるので。その時、なぜだろう、それを班で考えてもおもしろいと思うよと投げかけたら、おもしろい授業になっていくので。教材研究が大事という教員支援の話かなというように思っています。御質問にあったように、水溶液については色が変わる、変わらないということについては静止画が多いのですが、意見として出てきたのは実験器具の使い方。例えば、火の使い方とか、秤の使い方とかそういうことは動画の方がいいですね。実際に子どもたちが使う場面ですので、それについては積極的に、事故のないようにすると。そういうような使い分けです。これからの課題かなと思っています。

上島委員 津市は学びの共同体を研究している学校が多くて、各学校でみんな話し合いをしていこうという授業になっているのですが。そういった意味から本当に親切はいいのかどうか。実験が失敗したら、これはこうだよということではなくて。なぜそうなるのか。そこを大事にする教育を。特に、理科はそうだと思うのです。なぜ上手くいかなかったのか。ちょっと失敗したとか。みんなで話し合っただけが進めるのが教育の根本だと僕は思っているのです。そういう意味から各教科で主体的に子どもたちが話し合いをする。そのような場面がたくさんある作りになっている教科書は大事だと。理科も全くそうだと思うのです。理科こそ本当にみんなが思ったこと、疑問に思ったことを話し合える教科だと思うので、できるだけ子どもに戻してということが大切だと思います。中学校の話ですが、この時はこうなりますよと言ってやった方がいいという考えもあります。実験していろいろ試すとそれこそ間違えてしまうことがよくあるのですが。受験のために結果があるのではないと。我々の生活のために、主体的に子どもたちが考える場面をたくさん作るような授業を組み立ててもらえるようにしてもらいたいと思います。

教育長 他にいかがでしょうか。

中村委員 プログラミング関係はどうでしょうか、他社と比べて。

原田校長 1番後ろのところを見ていただいたと思うのですが、啓林館は先ほど上島委員が言っていたように、試行錯誤ができるように、1回貼ったら終わりというシールではなくて、何回も貼り直しができるというような工夫がしています。他の会社は、例えば、シールであったり、シールさえなかったりするところもありますけども。それから先程のQRコードですが、プログラミング教育については、啓林館は専用のデジタル教材にQRコードからいけるようになっていきます。これをパソコンに取り込んだら電気がつくかどうかをプログラミングしていくという内容で、それをパソコン室で動かしてプログラミングしたら、電気がついたとか、なんでつかないのかということで試行錯誤できるようなデジタル教材を啓林館は作っています。これについても親切だと思います。この教材を教員が作れと言っても作れませんので、提供してくれているのでいいなと思います。

中村委員 他のところはそういうのは提供されていないのですか。

原田校長 他に2社ぐらい提供しているところがありましたけど、その中の1つが啓林館です。

教育長 他にいかがでしょうか。それではないようですのでこれで調査員代表の原田先生ありがとうございました。お世話かけました。

それでは理科の教科書採択について御意見等ございましたらお願いいたします。

富田委員 感想のような感じですけど、先程の御説明もお聞きしながら教科書を見せていただくと、非常に理科の授業が楽しいものになりそうな期待が持てるような内容なのかなというふうに感じました。これでいいのではないかなと思います。

上島委員 理科の専門家の話が出ましたが、理科の専門家ってそんなに学校にはいないと思うのです。どんな先生でも興味を持ってやれるように。専門的な話になったもので。少し気になったのですが、教科書は全く問題ないのですけど。選ぶ時に本当に理科が苦手な人でもやってみようかというような教科書にしてやりたいと思っている。

学校教育・人権教育担当理事 今おっしゃられたことを僕も同じように聞いていましたが、多分、神戸の原田校長ですが、今は理科担当を置いているので、その感覚で話をされたのかなと。でも、全ての学校が理科担当を置けるわけではないので、上島委員がおっしゃられるように、担任が理解できるという観点での視点は大事だなというように思いました。でも、この教科書は確かに考えられていると捉えています。

教育長 他に御意見いかがでしょうか。それではないようですので理科につきましては啓林館のわくわく理科ということでよろしいでしょうか。それでは、教育委員会としては啓林館のわくわく理科を令和2年度使用小学校用教科書として採択することを決定いたします。続いて生活科に進みます。

#### 生活科

教育長 それでは、調査員代表の伊藤先生に来ていただきましたので、続きまして生活科の採択候補の報告をお願いいたします。

伊藤教頭 よろしくお願いたします。私たち生活科の調査員は7社の教科用図書全てについて、新学習指導要領の主旨に沿って調査をさせていただきました。その結果、啓林館の教科書、わくわくせいかつの上、それから下はいきいきせいかつが令和2年度から使用する教科書として最も適切であると判断いたしました。その理由を様式2の選定案にまとめさせていただきましたが、中でもポイントを5つに絞り説明をさせていただきたいと思えます。まず1つ目のポイントは、選定案の1つ目の○の前半部分になります。各単元の導入のところが大切にされているというところです。そのことによって子どもたちが主体的に学べるような工夫がなされていると考えました。教科書を見ていただきますと分かるのですが、この啓林館の生活科の教科書は全ての単元が3つの段階で構成されています。例えば、1つ目はわくわく、それからいきいき、ぐんぐん、それぞれページに色が付いていて分かりやすいと思うのですが、わくわくは緑色になっています。これは単元の導入にあたる部分です。そして、いきいき。これはピンク色のページです。子どもたちが実際に活動するところです。展開にあたるということです。そして、3つ目のぐんぐん、水色のページなのですが、これは活動を終えた後の振り返りをするというページ。最後のまとめの段階です。この3段階で構成されていますが、中でも導入のところ、わくわくが大切にされていると思いました。例えば、上の教科書ですと、2ページのところを御覧ください。子どもたちが学校探検をするという單元なのですが、最初に、子どもたちのダイナミックで楽しそうな写真から始まっています。

次のページを見てみると4ページ、わくわくボックスということで、クイズ形式になっていて、子どもたちが今から始まる単元に対して、不思議だな、楽しそうだな、やってみたいなという気持ちを引き出せるような工夫がされていると思いました。単元の導入段階で子どもたちの心を掴むということは、その後の主体的な学びにつながると考えました。それから2つ目のポイントとしては、選定案1つ目の後半の部分なのですが、めくりことばというのがこの教科書には設定されていました。これは新学習指導要領が求めている深い学びにつながるものとだと思いました。例えば、上の教科書ですと7ページを御覧ください。みんなで学校探検をした後、この活動の中で、この右端の縦書きで書いてある言葉なのですが、気になる場所があるよ、この思いが次の活動の、では、気になる場所に行ってみようというようにつながります。そして、気になる場所に行ってみて思ったこと、もっと探検に行きたいなという子どもの思い、それが次のページの、では、今度は学校の人と話をしてみようというところにつながっていきます。その中で仲よくなれてうれしいな。それが次のページ。では、今度は校庭を探検してみよう。校庭も楽しいね。では、今度は学校の周りを歩いてみよう。たくさん発見したよ。その思いが次の活動、見つけたことをみんなに紹介しようということで、活動の中で生まれた子どもの気づきとか思いが次々と次の活動につながっていくような工夫がされていました。これはともすると生活科の活動が単発的になりがちなのですが、そうならず1時間の活動の中で気づいたことか思ったことを次の活動に繰り返しつなげていくことで、学びがどんどん深まっていくような工夫がされている、これが深い学びにつながっていくのではないかなと考えました。それから、3つめのポイントが選定案の様式2の中の2つ目の○にあたる場所です。子どもたちの言語能力を育成するための工夫がいろいろなところに散りばめられているなと感じました。いろいろな活動をした後、まとめの段階では作文とか手紙とか、ポスターとかにまとめたり、新聞に書いたり、子どもたちが学習したことを表現する多様な方法が例示されているなと思いました。例えば、下の教科書24ページを御覧ください。これは子どもたちがいろいろな野菜を育てるという単元なのですが、いろいろな野菜を育てた後、カードに気づいたことをまとめ、最後にはこのカードを1つの絵本にまとめてみるとか、いろいろお世話になった野菜名人の佐藤さんに子どもたちがお手紙を書くとか、36ページで町探検の学習をするところなのですが、子どもたちが町探検に出かけて発見したことがあります。それを地図に表して、地図上で写真とか絵とか文で子どもたちが表現するとか。あるいは、37ページですと分かったことをクイズにしてクラスの友達に紹介するとか。あるいは、ペープサートでお話作りをするとか。それから、写真を撮ってきたことを見せながらみんなに説明

するとか。ペープサートとかクイズなんかは低学年の子どもたちならではの表現方法だと思いますが、いろいろな表現方法で子どもたちが気づいたことを自分の言葉を使って表現するページがたくさんあり、これが言語能力の育成につながると思います。4つ目のポイントとしましては、選定案、様式2の中の3つ目の○にあたる場所です。ICTを活用した学習活動の充実が図られていると思います。例えば、タブレットパソコンを持って行って子どもたちが気づいたことを写真に撮ってくるとか。その撮ってきたデータをテレビに教室で映してみんなに見せながら発表するとか。そういうICT機器を活用した学習がたくさん提示されていましたし、QRコードもたくさん載っていました。それをスマホとかパソコンとかでQRコードを読み取って、その学習に役立つようないろいろな情報を閲覧できるようにされていました。子どもたちが学校であれば先生と一緒にその情報を見ることができずし、これはおうちでもスマホでそれをかざしてもらったら、こんなことを勉強しているのだな、次はこんなことを家でやってみようかなという感じで、おうちの人との連携を図ることにも生かせるのではないかと思います。それから、最後5つ目のポイントは選定案のプリントの8つ目の○のところ。1の最後の○です。スタートブックとステップブックというところが充実しているのがこの啓林館でした。このスタートブックというのは、生活科の学習は1年生と2年生だけで学習する教科ですので、小学校入学前の幼稚園とか保育園での学び、遊びを通じた学びの連続とか、あるいは、2年生以降、3年生からの中学年での学習とスムーズに連続していることが意識されているなど。学びがつながっているなというところが非常に意識されていると思います。スタートブックは上巻の最初に載っています。めくっていただきますと、角が丸くなっており、小さなページになっています。学校大好きあいうえおというページが10ページくらいあるのですが、これが入学間もない1年生の子どもたちが学習を始めていくときに、スムーズに小学校の学習に入っていけるように工夫されているスタートブックです。幼稚園や保育園でもやったことがあるよというような活動の写真から、小学校の教科ごとの学習へとスムーズに流れていく、移行するように工夫されていると思います。これは子どもたちがいきなり小学校に来て、今日から小学校です、もう幼稚園、保育園とは違いますよというのではなく、幼稚園や保育園でもお馴染みのやったことがある活動をうまく生かした小学校の学びにつながっていくということで、子どもたちに安心感を与えることができるのではないかと思います。もう一つは2年生の下巻の最後には、ステップブックというページが同じようになっています。128ページの後、2年生の生活科の学習が終わった後、3年生に向かう前に3年生へのステップブック、未来へ向かってということで、こちらも7から8ページが設けられています。

こちらも2年間の生活科で学習したことを振り返って子どもたちが自信を持ち、それから希望を持ちながら次の3年生の学習にスムーズにつなげていけるような工夫がされているなど感じました。今、御説明させていただいた大きな5つのポイント、理由から啓林館の教科書が最も適切ではないかと私たちは判断しました。

教育長 ありがとうございます。先程の報告につきまして御質問等ございましたら。

上島委員 東書は大きい版ですけども、そのことについて議論をされましたか。

伊藤教頭 しました。今は東京書籍の教科書を使っているわけですけども、いろいろな工夫がされていまして。最終的に総合的な判断から啓林館の教科書という結論に至ったわけですけども、先ほど説明した深い学びとか主体的な学びとか、学びの連続性とか、QRコード、情報の充実という点で啓林館が優れていると私たちは判断したのですけど。最後まで悩んだのが東京書籍でした。ただ、大きさ的には、大きいことで1年生の子どもが使うものですので、ランドセルにしまいにくい、机にしまいにくいという意見も出まして、使いやすさという点も大事なポイントかなと思ったので、最終的に啓林館の方でということになりました。

上島委員 中身的に、細かい写真がいっぱいあるのがいいのか、余白があつて写真が大きい。小学校1年の頃にとって。それについてはどう考えます。

伊藤教頭 他の会社の写真とか小さい枠の中にぎゅっとたくさん仕込まれているのも実はあったのです。啓林館は必要な情報がうまく精選されていて分かりやすく配列されていたので、そういう小さいことで見にくさということはありません。

上島委員 丁寧にいろいろ関係することが書いてもらってある。子どもに任せるといっても大切ではないか。計画を立ててやりましょうというように。例えば、学校探検で今から1時間いろいろなところで探してきなさいよと。あまり細かく書いてしまうと。生活は普段の気づきが大事だと思うのですが。そこら辺はどう考えますか。

伊藤教頭 自分も小学校の1年生とか2年生の担任をよくさせてもらったので



すけど、多分担任の先生はこの教科書の通りに全部このまま追っていくことは少ないと思うのです。時にはそういうように子どもが困ることも想定してから、何も計画を立てずに、はい書いてごらんと言うこともあってもいいと思うのです。教師がここから上手に選びながら活用するには、丁寧に教科書が書いてある方が学びの基礎を作る段階ですので、ここは大事かなと思いました。

上島委員 3年生へのステップブックが大事だと。ということは理科の教科書が3年生以後に啓林館だということはある程度頭の中に想定してということですか。

伊藤教頭 今はそうなのですが、考える時にはそんなに大きな観点ではなかったです。

上島委員 それだったらいいですけど。流れとしてはせっかくだったら啓林館の生活科、啓林館の理科に移った方がスムーズですよ。その辺は一切考慮せず。

伊藤教頭 はい。

教育長 その他御質問いかがでしょうか。

富田委員 内容は改めて見させてもらおうと、僕は幼児教育が専門なものですから、幼稚園、保育園での活動内容と随分重なる部分があつて。幼児教育からの接続という面でも、柱としての生活科という意味でもよいのかなと感じたのですけども。先ほど申し上げたように、生活科もそうですし、幼稚園、保育園での遊びなどもそうなのですけども、単発に終わってしまうということもあつて。特に、生活科になってくると、学びという意味での連続性を持たせるかという、その部分ではこの教科書では随分子どものワクワクする心が次の活動につながっていきけるのだというようなことが分かるような。おっしゃられたように、実際には本当にこの通りにやるのではなくて、ヒントとしてという感じですよ。おそらく。生活科は自由度が高いと思いますので。それぞれの先生方が工夫する際に、これだと経験したことがいろいろつながっていくのがいいよね、というところが分かりやすく指南されているということを感じて持ちました。

滝澤委員 啓林館の先ほど言われたスタートブックのところですね。入学の写

真から始まって、保育園の頃の写真もあるのだと思うのですが、幼稚園、保育園からの連続性ということで。1年生になった。そこから自然に入ってくるようなページになっていて、ここが小さくて丸い。他にも丸くなっているところがあるのですが。写真の選び方とか大きさとかそういうのを見ると、スタートとして非常に入ってきやすい工夫がされていると思いました。御指摘のところはもっともなのですが、もう一つ、次点は東書でしたよね。東書はやはり大きいかなという感じがして。内容的にはいろいろ工夫されていると思うのですが、手に取ってページをめくって書いていきやすいのは、啓林館かなという気がいたします。そういう意味では選定していただいた趣旨がよく分かります。

上島委員 目次。上だったら9個の題材がありますよね。これはやはり押さえないといけないことですか、1年生として。

伊藤教頭 はい。

上島委員 これは何時間かけます。生活科は。

伊藤教頭 週3時間なので、34週、102時間ですかね。

上島委員 例えば、探検した後、みんなで新聞を作ろうとかですね。あるいは、気づいたことを話し合おう。そのようなことが大事だと。津市の教育として。そういう事は考えて選ばれましたか。

伊藤教頭 はい。新聞にまとめたり、劇化をしたりとかいろいろ子どもたちの表現力をつける工夫がされていたと思います。

上島委員 それが啓林館の方が優れていたと。

教育長 その他御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、ないようですので調査員代表の伊藤先生大変お世話かけました。ありがとうございました。

それでは、生活科の採択について御意見等ございましたらお願いいたします。

上島委員 これは変わったのですね。

教育研究支援課長（兼）授業改善担当副参事 はい。

上島委員 最後の言葉が欲しい。津市の教育として子どもたちにいろいろな活動をさせる内容がこっちの方がより優れていると。そういうものがなければ、なぜと言われた時に、みんな見てそう変わりがなければ、はっきりしたものがなければだめだと思います。

教育長 御意見ございましたら。

富田委員 先ほど言わせていただいたことと重なるのですが、この啓林館の教科書は子どもの心の動きというのを中心にして、他の教科書によっては経験が先にあるような感じのものがあまして。そうではなく、子どもの心の動きが経験と出会ってそれで深まっていくという。幼児教育からの接続・連続性が意識されているような感じがしますので、とてもいいのではないかと思います。

滝澤委員 啓林館は使いやすさ、見やすさ、子どもたちにとっても分かりやすいですね。そういう点で1番優れているのかなという気がいたします。

教育長 御意見いかがでしょうか。それでは、ないようですので、生活科につきましては啓林館のわくわくせいかつ上、いきいきせいかつ下を令和2年度使用小学校用教科書として採択することと決定してよろしいでしょうか。ありがとうございます。御異議ないようですので、教育委員会としましては啓林館のわくわくせいかつ上、いきいきせいかつ下を令和2年度使用小学校用教科書として採択することに決定いたします。

保健

教育長 それでは、引き続いて保健から始めていきます。調査員代表の谷本先生に来ていただいたので、谷本先生から採択本の報告についてお願いいたします。

谷本校長 保健の教科書は5社あったのですが、5社の教科書見本本全てを学習指導要領の趣旨に沿って精査した結果、学研のみんなの保健3、4年生、5、6年生の教科書が令和2年度に使用する教科書としてふさわしいと評価をいたしました。選んだポイントにつきましてはですが、まず、1つ目は子どもたちが主体的に学習に取り組めるように工夫がされていると感じました。具体的に言

うと、自分の送っている生活を振り返って考えることができるチェックリストが他の教科書会社よりもたくさんあることです。例えば、学研の3年生と4年生の6ページを御覧ください。この学習のところで心と体のチェックがあるのですが、このチェックは普段自分が生活している中身について振り返るということです。これによって、その後出てきます健康の定義として、健康とは元気であるという項目があるのですが、この定義について、自分が普段送っている生活が健康かどうかということとすぐに結びつけることができます。それから、同じく学研の5年生と6年生の42ページ。ここではいわゆる生活習慣病も出てくるのですが、まずは、虫歯と歯周病のことを学習するのですが、虫歯、歯周病を学習する前に、歯は生活の仕方と深く関わっておりますので、自分の生活を振り返る。それによって、虫歯と歯周病の原因についてより深く学べるように考えられております。まずは、子どもたちが自分の生活を振り返りながら、主体的に学習に取り組めることができるように工夫されているということが1つ目です。2つ目は学習して学んだことを深められる工夫がされていると思いました。各単元の終わりに学習した内容と関連のある分かりやすい資料が掲載されています。この学研の教科書ではもっと知りたい、調べたいという項目があるのですが、3年生と4年生の場合ですと、12ページを御覧ください。ここでの学習は体の清潔に関わって、手についた細菌の資料が載っています。例えば、洗わなかった時はこれだけ細菌がついています。石鹸で洗うとあまりついていません。ということ子どもたちに分かってもらうという資料なのですが、これを学習した後に、16ページを御覧ください。単元の終わりにもっと知りたい、調べたいことが出てきます。この16ページでは、先ほどの洗わなければたくさん菌がついていて、洗っているとあまりついていない。では、どのように洗うのかということがそこに書いてあります。ただ単に手を洗わないとたくさん菌がつくということではなく、きちんと洗うためにはどんな洗い方がいいのかということもここに書かれています。このように学んだことを深められる工夫がされていると思えます。高学年では、例えば、5、6年生の40ページを御覧ください。ここではいわゆる生活習慣病として、生活の仕方と病気ということを学びます。40ページには主な生活習慣病ということで心臓病、脳卒中等が取り上げられています。その中で、癌という病気にも触れているのですが、単元の終わりにもあります44ページを御覧ください。ここでも知りたい、調べたいと単元の最後にあるのですが、先程の主な生活習慣病で癌という病気が出てくるのですが、40ページでは癌のことは少ししか書いてないのですが、ここではどんな病気かということを変に詳しく触れているということです。いわゆる癌教育という勉強だと思います。このように、単元の終わりにこういう関連のある分かりやすい資料が掲載されているために、学ん

だことを深められる工夫がされているのではないかと感じました。それから、3つ目ですけれども、学習内容の分量が適度でかつ見やすく読みやすいということがあげられます。他社の中では学習内容の分量が多くて、大変詳しい教科書会社もあるのですけれども、保健の教科書を使う時間は、中学年でだいたい6時間から8時間。高学年で8時間から10時間ぐらいの時間を使います。その時間数の中で、分量が適度でというのは大きな理由になります。また、見やすく読みやすい。写真とかイラストも大きいです。それから、学習内容の分量は適度なのですが、きちんと教科書に書き込むような記入欄もあります。読みやすさについては、これは他の教科書会社よりも少し進んでいるかなと思ったのですが、未習漢字にはルビが振ってあって、非常に子どもたちが読むのに困らないということが特徴の1つです。3つ目の理由として、学習内容の分量が適度で見やすく読みやすい教科書であるということです。それから4つ目ですが、先ほど資料の話をしましたけれども、各単元にいろいろな科学の目という写真とかグラフを活用して、これも大変わかりやすく学習を深めることができる資料があります。例えば、3年生と4生ですと23ページを御覧ください。ここに科学の目というのがあるのですが、手の骨の変化とあります。実はこれはその前に習っている20ページで体の発育に関わって、ここでは身長のこと書かれています。発育というのは身長だけではなくて、体重も関わってくるのが発育です。20ページで触れている発育は身長だけですが、手の骨の変化のところでは体重も関わってきます。その体重のところには吹き出しがありまして、体重が増えることは発育も関係しているということで発育についてより深く学習できるようになっています。しかも、写真もありますので、視覚的にも分かりやすくなっています。それから、5・6年生ですと、46ページを御覧ください。喫煙の害についての学習なのですが、ここで喫煙の心身への影響ということでいくつか取り上げられています。喫煙をするとこんな影響があるのだなということは分かるのですが、では、実際に体の中ではどんな変化があるのかというのが、科学の目というところで分かるようになっています。喫煙によって血流の量が少なくなり、ここの赤いところが少なくなっていると。実は目に見えないのだけでも、タバコを吸うたびに、血液の流れが悪くなっているというようなことをこの科学の目という資料で確かめることができます。各単元の終わりだけではなくて、随所に豊富な資料があるために学習を深めることができる、そのように感じました。最後に現代的な諸課題として、いじめについても大きく取り上げられています。これは5、6年生の教科書の16ページ、それから17ページに取り上げていますが、他の教科書会社についても取り上げられている部分はあるのですけれども、このようにページを割いて現代的な諸課題として大きく取り上げられているのは学研でした。内容としましては、

悩み、それからいじめについてイラストが付いていますが、対処方法がきちんと示されています。このようなことから学研の教科書が令和2年度に津市で使用する教科書にふさわしいというように評価、選んだポイントとなります。以上です。

教育長 ありがとうございます。それでは、ただ今の報告につきまして御質問等ありましたらお願いします。

上島委員 もっと知りたい、調べたいというところがありましたね。発展的な課題ですよ。これは指導要領に載っていますか。

谷本校長 はい。載っています。学習部分からの発展という形で提示されています。

教育長 その他にいかがでしょうか。

滝澤委員 学研の3、4年生の6ページでチェックさせるところがありますよね。普通はこういう所にチェックすることに抵抗は無いと思うのですが、例えば、支援が必要な子とか、そういう子にこれをさせますか。

谷本校長 その際は特別支援員さん等が横について、その内容をお話しされながら一緒にチェックができると思います。

滝澤委員 精神的には大丈夫なのだろうけど、手足が不自由な子が実際に何人くらいいるのか分かりませんが、このチェックさせるところでちょっと違和感があり、そういうところへの配慮が必要ではないかなと思うのです。例えば、東書ですと、健康っていうことを一緒に考えさせるのですが、チェック項目がないように思うのです。健康とはどういう状態だと思いますかというような問いかけはあるのですが、こういう形での健康かどうかの判定というのはいない気がして、ちょっと配慮が必要かなという気がします。

教育長 当然教室の中にはいろんな観点から支援が必要な子どもがみえて、必要な場合は教科に関わらず、その子どもにふさわしい支援とか対応が必要になると思います。

上島委員 説明にあった時間ぐらいで使うのなら、ノートはなしで、これが全

てだということでもよろしいか。固有のノートは作らないと思うのだが。書き込みで。

谷本校長 必要であればワークシートをつける感じになります。教科書への書き込みだけではなく、使い方としてはそういうことになります。

教育長 今は学研ですね。他に御質問よろしいでしょうか。他にないようですので、調査員代表の谷本先生ありがとうございました。

それでは、保健の教科書採択について御意見等お願いします。よろしいでしょうか。ごさいませんようなので、保健につきましては学研のみんなの保健を令和2年度に使用する小学校用教科書として採択することに決定してよろしいでしょうか。それでは、教育委員会として、学研のみんなの保健を令和2年度使用する小学校用教科書として採択することに決定をいたします。続きまして英語に入ります。

英語

教育長 それでは、調査員代表の黒川先生に来ていただきましたので、英語についての採択候補についての報告をよろしくお願いします。

黒川校長 まず、教科書の調査にあたって、英語科という教科の特質を踏まえて、重きを置いた2つの観点、何を中心に見たかということなのですが、1つ目は英語科の特質に応じた主体的、対話的、深い学びについてということで、子どもにとって身近で興味が持てて、英語を使う必然性が感じられる場面がその教科書に設定されているかという点に着目しました。2つ目の観点は英語ですので、特に、言語能力の育成という観点につきまして、無理なく楽しく定着を図られるかという点に着目して調査を行いました。学習指導要領の目標を達成する上で、これら2つの観点到重きを置きつつ、他の観点到についてはこの2観点を支えるよう工夫されているかに着目して、7社の見本本について調査を行いました。その結果東京書籍の **New Horizon Elementary English Corse** が最も適切な教科書であると判断いたしました。理由としましては4つのポイントについて説明させていただきます。選定案には項目の通り順番になっているのですが、4つについて説明の都合上、少し順番は変わりますが、1番特徴的な点から御紹介したいと思います。まず、下から2つ目の○のところなのですが、別冊の **Picture Dictionary** というのがあります。7社あったのですが、別冊の **Picture Dictionary** を置いていたのはここだけということで、これをどう判断するかということは最後まで議論しました。これをず

っと見ていきますと、5年生の4ページの下を御覧ください。めくっていただきますと、下の左のほうに **Picture Dictionary** と一緒に使おうという子どもたち向けに説明があります。その **Picture** の赤い文字の下にブルーのマークのところだよという表示がしてあります。この表示があるところが小学校で学びたい基本的な語や表現が示されている部分です。各ページどこをめくってみてもたくさんついていまして、3分冊ともにこれが入っていて、主体的、対話的、深い学びという点で英語表現の定着においても英語のやりとりが大切なのですが、苦手な子ども得意な子ども自分が使いたい単語や表現を選び、復習しやすいようにジャンル別に **Dictionary** が編集されていて、こんな時はどう言えばいいのだろうと、子どもが迷うようなところもピックアップして書いてくれてありますので、これを2年間持ち続けるということになっています。各教科書いろいろな工夫がされているのですが、分冊になっているのはこれだけ。他の教科書はこういうのがどういうところに入っているかというところ、巻末に出てくる単語集とかに表れているものが多いです。ただ、教科書を開いて言葉を選ぶ時に、同じ教科書で2つ場所を探さなければならないということがありますが、別冊になっていることでメインのページを開きながら、こちらの方で自分が見たいテーマのところを探がせるというような利点があると思います。この **Picture Dictionary** の中身は詳しく言いませんが、見ていくとなかなか子どもにとっていいと思います。イラストとともに示されているので。例えば、活動する時に絵を描いたりする時もあるのですが、絵の苦手な子どもがこれを見本に自分で描きたい絵を選んで、絵を描くこともできるようになっています。それから、2点目の特徴なのですが、2の使用上の便宜の最初の○を見てください。2つ目の大きな特徴としては、特に、情報活用能力ということが言われているのですが、この2冊の教科書と別冊の3冊、大体全部合わせて200カ所に2次元コードや **URL** が示されていて、音声とか映像とか、子どもにも教師にも豊富な映像や音声などの教科書よりもたくさん示されているので、そういう面でも使いやすいというのが2点目の特徴です。3点目は同じ4ページを見ていただくと、案では2使用上の便宜の2つ目の○にあたります。全パートが4つの構成になっています。4ページを見ていただきますと、各ユニット単元の最初にスターティングアウトのところ、2つ目に会話に慣れる、コミュニケーションを十分に楽しんで後で世界を広げるというように進んで、ユニットをまとめるところで **Check Your Steps** で学びを確かめるというような流れが、2冊の教科書を通じて全単元同じ構成になっていて、これらの配置されている場所が皆同じ場所に大体示されています。このページのこのあたりにこのポイントがあるということが子どもにも分かりやすくなっています。児童が活動の見通しを持ちやすいということになります。それから **Check**



**Your Steps** の最後の確かめるところでは、巻末にコミュニケーションカードというのがあるのですが、そこで作った成果物を貼り、テーマに沿ったコミュニケーション活動を行って振り返ることができるようになっていました。最後に4点目なのですが、案では上から2つ目の○を御覧ください。先程の4ページの4つの進め方の中のユニット2、**Your Turn** のところでは重要表現に慣れることができるようにペアワークやグループワークややりとりを通して繰り返し聞いたり話したりする構成になっています。実際に見ていただきますと、最初の10ページ、ユニット1、5年生の教科書 **Hello friends** というところを見ていただきますと、**Sounds & Letters** とか **Word Link** とか **Small Talk** とかそういう活動が散りばめられています。これが脚注の **Word Link** という所では先程の青いマークがついていますように、別冊の **Picture Dictionary** の36ページを開いてやり取りの幅を広げる工夫がされています。**Sounds and Letters** の方では児童がアルファベットを少しずつ学びながら、巻末にノートがあるのですが、そこに示された書き順でなぞるところから負担なく積み重ねられるように工夫されています。それから、左側のページの下の段のオレンジの **Small talk**、これは津市の方でも力を入れていて、この単元の **Small talk** をどうしたらいいかなということを英語の苦手な先生が、これをこの単元とするのだなというのが分かるように、どの単元も同じように配置されていますので、そういう点では他の教科書よりも **Small talk** がしっかり配置されていて、教師も使いやすいのかなと考えました。もう一度戻るのですが、特に、文字のことが今回英語の中で親しみながら定着させていくという部分も小学校英語に入ってきました。現場の先生に聞きますと、書き順が分からない子が多いということもあって、そういうことも比べてこの教科書の導入のところを見ますと、しっかりと書き順が示されていて、最初になぞって、それから自分で真似して書いていくというような、そういう細かな配慮もされているので、子どもにとっても優しいのかなというところがあります。以上のような長所がありますので、小学校英語の教科化の本格実施に際しまして、いろんな子どもたち、得意な子も苦手な子もいるわけですが、全ての子どもたちが英語に親しんで無理なく定着できるように、決して英語嫌いを生み出さないようにするために、まだまだ英語に自信を持ってない先生も過度の負担を感じることなく、指導しやすく配慮された教科書であると判断しましたので、この教科書を選定案とさせていただきます。以上です。

教育長 ありがとうございます。ただいまの報告につきまして御質問等ございましたらお願いします。初めて、ということですが、

中村委員 これまで正式に教科になる前に、今年までは先行的にされていたところもあると思うのですが、どんな感じで授業を行っているのですか。教材とか。

黒川校長 先行的にやっているのも、多くの学校が **Let's Try** とか先に国が英語活動用に作った5、6年生用の教材があるのですが、それを取り込むというか踏襲するというか、リンクさせる形で多くの教科書がそれを意識して中学校とこれまでの現場での英語教育とをつなぐ形で、教材配列とか意識して作られているのですが、この東京書籍の教科書につきましても、今までの活動としてやってきたことが英語科になってもそれほど違和感がないように、似たような単元とかそれらを活かすような形の配列になっているという感じです。

富田委員 英語は今回初めてということで、1番判断が迷うといたしますか、難しいなと感じたのですが。今回選ばれている東京書籍は **Picture Dictionary** の別冊があるというのは非常にいいところかなと感じました。ただ一方で、それぞれのページごとに上の部分と下の部分ということで、例えば、5年生の10ページのところのユニットにも上に **Let's sing**、**Let's can**、下に **Small talk**、**Word Link**、**Sounds and Letters** とあるのですが、すごく情報量が多い印象があって、これがタブレットとかでタッチしたら飛ぶというのだったらいいのだろうけども、7ページ、24ページと実際の授業でこのページを開いてずっと授業が進んでいくのではなくて、開いてもらいながらこの授業の活動をするという感じで、なんかこういうような構成のページの配置からどのように授業が展開していくかというのがイメージしにくいのですが、その点はどのように。

黒川校長 基本的には、ページは単元1時間で見開きという形なので、いろいろなページをめくることはありません。今、言っていたユニット1ならば最初の時間はこの見開きで。大体見開きで授業が構成されているということになっているのと、上段下段が分かれているところについては、短時間でやっている学校も結構ありますので、その上段の幅の広いところについては、メインの授業で45分使うのですが、下段にある部分については短時間でもできるとか。学校によっては本当にコマだけで全部やっているところと、帯の時間を使って15分×3で45分ということで月水金に英語をやっているところとか、短時間で扱うところとかあります。そのような方法も丁寧に指導書に示されています。教科書だけではなくて、説明資料の方ではデジタル教科書が使いやすいように指導書からリンクして使えると書かれています。音声映像の資料

が用意されているとともにデジタル教科書も用意されているということです。現場の教室がそういう環境に対応しなければなりません。それは課題として思っています。教科書自体はいろいろな音声とか、子どもたちが興味関心を持てるような動画とか、そういう支援がかなりふんだんに用意されている。それを統括するデジタル教科書も当然用意されるだろうけども、それがきちんと動く教室環境にしていかなければならないというのが一方の課題になってくると思います。

教育長 その他にいかがでしょうか。

上島委員 指導要領にはこれだけの単語を教えなさいというのは示されているのですか。

黒川校長 小学校の段階では700語程度というのがベースになっています。

上島委員 その700語は大体生活に結びついたものばかりですか。

黒川校長 この Picture Dictionary に入っているのが700語を網羅しているものです。実際には初めて5、6年生で700語に出会うのかというと、当然今までやってきた子は3年生、4年生までの活動の中で多く触れているものがもう一回繰り返し出てくるというものなので、700分のいくつなのかと言われると少し分かりませんが、3年生、4年生で触れている言語がこの700語にかなり含まれていると考えていただけたらと思います。

上島委員 担任がこの教科書でできそうですか。英語がそんなに得意でない人が。

黒川校長 一番丁寧にいろいろなことが用意されているのがこの教科書です。どの教科書を使っても研修をしないと。苦手な先生もいるので。とにかく、他の教科書が150ページとか、144ページとかすごい量なのです。このニューホライズンは Picture Dictionary を後ろに出していることもあって96ページです。こんなにたくさんのページがあったら重たいなど引いてしまう教科書ではなくて、音声とかデジタルとか絵も大きく見やすく子どもが場面を想像しやすいようなイラストとか写真を入れつつ、ゆったりとしたページの中で、しかし、活動はデジタルとか音声で確実に身に付けられるということで、英語嫌

いとか苦手な先生が引いてしまうという教科書でないのはこの教科書ではないかと。調査員全員が最終的に一致したところです。

教育長 その他いかがでしょうか。

上島委員 教科書はいいけど、この時点でどれだけのものが準備されているかが大切。先生方のためにも補助教材的なものを。

黒川校長 教科書もそうだったのですが、一番意欲的に解説が書いてあると思ったのも東書で。こういうものが用意されるよというのが絵で示されている。いろんな教材とか、ピクチャーカードとか、文面ではあるけどもデジタル教科書をきちんと指導書に入れてということが明記されているのは割と少なかったです。知りたいことが紹介のページに書いてあって、見てみたいなと思ったのです。最後のページに教科書、指導書、デジタル教材の三本柱ということで、教科書と教師用の指導書と準拠教材の一覧というのが全部載っていて、実際にこれらのものを使ってみないと何とも言えないところはあるのですが、用意するという姿勢は少なくとも評価できる。学習用の音声教材、Let's Try の教材セットの活用版とか、アルファベットの練習帳とか指導者用デジタルブックとかですね。CD とか教師用のいろいろな指導書についても CD、DVD-ROM、デジタルブック、ポイントチェックのウェブサイト、そういうものが用意されるということは示されています。ただ、それを見て使いやすいかというところまではまだ解りませんが、一応そういうものが用意されるということが謳われています。

上島委員 この QR コードは見てもらえました。どういう感じ。

黒川校長 映像があるものについては映像と音声と出てくるので、今見られますので、ここに QR コードを出していただいて、合わせてもらおうとこれで音が聞けるので、これで聞くにしている音かなと。発音も含めて。

上島委員 QR コードを流しながら授業もパッと動いていくというような内容のものもある。

黒川校長 DVD とかデジタル教科書も含めて、これを頼りにすると思うのです。教科書に出てくるメインの大事なターゲットセンテンスとか表現について印が付いている所は、教師が授業でも子どもたちと一緒に使うし、家庭でもデ

デジタルブックで音が聴きたかったら、スマホが使えるかどうか分からないけど、QR コードが読み取れるものがあれば家でも学校でも自学自習的に聞けるし、もちろん一番大事な授業の中でもそれを使いながらやるということになると思います。音声とか動画を授業で使うということについては、ここにあるものを使うということを前提に配置されています。

教育長 CD など教師用の教材がついているということ。

黒川校長 これを見ますと、いわゆる研究編とか指導編とか振り返りシートワーク編とか活動練習とかに加えて、QR コンテンツと同一の音声が入っているCDとか、同一の内容のDVD-ROM、文部科学省のWe Canのデジタル教材に近い感覚で使える指導用のデジタルブックとか、ウェブサイトが用意されているというような紹介になっています。

上島委員 授業の流れを汲んだような、それを流してやったら子どもらも一緒になってついて行けるようになるものもあるのですか。このQR コードには。

黒川校長 全部子どもらが自動的に自分でやっていくと。

上島委員 そう、それに合わせて。

黒川校長 それでいける子はいけるとは思います、ある程度両極いると思うのです。これを見ただけで分かる子というのはどんどん自分でやっていくと思うのですが、アルファベットの書き順も分からない子にとってはこれを見て音は聞けるし、発音とかも聞けるけど、どちらかというところそういう子はDictionaryのほうが頼りになるかなと思います。こんな時、何て言うのっていうのが載っていますし、この単元で必要な言葉は何を選んだらいいのかはこっちによるので。苦手な子はデジタルブックが中心になるだろうし。できる子だけがどんどん進んでしまうのもおもしろくないかなと。やはり、できる子もできない子も一緒にやり取りするところが理想なので。そこはどうしていくのかなというのがありますけど。

上島委員 語学として考えたらもっと自然に。分からなくてもいいと思う。何の勉強が好きですかと聞かれて、音楽と答えたら、じゃあ音楽はMUSICだよと教えてあげて、周りも音楽はMUSICかと気づく。そのように授業の中で流れていかなければ。

黒川校長 基本は **Small talk** で十分やれると思うのです。この左下の **Small talk** が基本になるので、12ページの好きなスポーツは何というあたりで、いっぱいいろいろなスポーツがあるっていうのを学習するのに、僕の好きなスポーツは何て言ったらいいのだろうというところとか。これを十分やりとりした上で大きな流れはできていくのですけど。何を流れにしていくかというのは **Small talk** になっていくかなと思います。

上島委員 1時間の中で人に聞きたいことが自然と体に身に付いてしまうかと。何回も何回もやって、何の教科が好きとか、何色が好きとか。1つか2つか。それが身に付いてしまうような授業でなければならない。

黒川校長 そのあたりの教科書の流し方というのがパターン化されていて、この教科書の場合は、4ページに示されているような音とかを十分触れるというところから入って、次第に子どもらのやりとりをふんだんにさせる。慣れる、楽しむというところで、自然と活動しながら慣れさせて、最終的には広げるとか自分の言いたいことを、今まで3つのユニットを使ってこういうテーマでみんなに伝えようみたいな流れがパターン化されています。ユニットの最初のページではどんなことをするのかというイメージが持てるような、見通しが持てるような、音に触れるとか話題に触れるという形になっています。5年生の最初であれば、転校生がやってくるのですけど、自己紹介をするというあたりから、まず、聞いたり、見て類推したり。こういうことを言っているのかなということから入って、名前や綴りを学習しながら、自分たちで名刺交換をしようみたいなパターン化された流れになっています。まずは、音に出会って、会話に慣れて、コミュニケーションを楽しむ中で定着させていこうという流れというか、パターン化されているという形に、この東京書籍ではそうになっていません。

教育長 その他御質問ありませんか。

滝澤委員 この4、5学年の英語教科に入る前に英語活動といいますか、その前の段階、それから中学校の段階に上がるかと思うのですが、うまくずっと流れていくような教科書になっているのだとは思いますが、結構難しいかなという気がしますし、発音に慣れて話せる、そこにすでに伝わるような英語が話せないといけないので、そうするとその中には過去形が入っていたり、**can**とか文法的に考えると結構分かっていないと使えない文章が使っているのですが、

教え方が少しよく分からないのです。3、4年生から4、5年生になって中学校に行くとこの流れの中でどのような形で教えていくのかというのが、基本的なことがよく分からなくて。語彙が増えるのではないかなと思いますが、正確な英語が。例えば、この **Small talk** でもできるのかなという心配があるので教えていただきたいのですが。

黒川校長 基本ユニットが全部で9つあるいは10個各学年あるとして、基本的に定着させていかなければならない表現というのは繰り返し出てきて、それらを使って次の単元へ、スパイラル的に何回も繰り返し出てくる中で基本的なものを定着させるようになっていきます。現実の会話の中で簡単な過去形とかも出てくるので、そういうのも意図的に入れて。ただ、単発ではいけないので。例えば、6年生のユニット4とか6とか7で出てくるのですが、**We Can** では6年生のユニット5で2回ぐらい出てきます。すでに、3、4年生でも過去形が出てきているものを活用しながら、この5、6年生で繰り返し出てきて定着させていくという流れになっています。**We Can** とか **Let's Try** のものをかなり含む形で使っているので、調査員は3、4年の指導をしてきた流れと比べても、違和感を感じない構成になっていると述べていました。

滝澤委員 5、6年生は中学校に向けてどのように授業を進めるのですか。

教育長 授業に関して事務局の方から。

事務局 中学年の、3、4年生の子どもたちは外国語活動になっていますので、ここでの大きな活動としましては音声に充分慣れ親しむ。音のシャワーをたくさん耳にして子どもたちはそれを繰り返す活動が多くなっています。高学年の5、6年生になりますと、中学年の活動にあった音声に十分慣れ親しむとか、日常生活の身の回りのもの、本当に簡単な、普段自分たちが目にしているものや聴いているものを友だち、あるいは、ALTの先生、学校の先生とともに、依頼されたものに対して応じるであるとか。高学年になると断るという活動が入ってくるようになります。中学年の場合は自分の気持ちというよりは、簡単な内容を音のシャワーでしっかり浴びてもらって、高学年になったら会話の中で自分の気持ちを相手に伝えるという活動が入ってきます。どちらにしても文法事項は小学校では扱いませんので、正確性ということに関して子どもたちにそれを求めるということは、現在も行っていないところです。ただ、指導者の先生やALTの先生からここは過去形の方がいいだろうとか、ここにはこの発音がいいだろう、この言葉を使った方がいいだろうということに関しては、指

導者の方から丁寧に話はしてもらっています。例えば、生徒が発音した内容が過去形になっていなかったからといって、今ここで言い直しましょうという指導はしないようになっております。自分でコミュニケーションを取る時に、どのように自分で聞いて答えるかということを高学年では中心に行うことになっております。また、中学校に関しても、文法指導がしっかり入ってきますので、基本技能5領域に関することについてはもう少し専門的な内容が入ってきますが、中学校の教材にも小学校との接続の内容が入っているところもありますので、それを上手に使いながら、小学校の内容が二度手間にならないように、1年生に習っている内容が全て5、6年生の復習という形にならないような授業を進めています。

上島委員 本当にそれでいいのかなと思うこともあります。例えば、eat が昨日食べたら eat ではないよと、こうだよと。それを言わなかったら何のことか分からない。そのあたりの難しさはあるのではないかと。文法を教える必要はないが、ある程度その理屈だけは言ってあげなければ、分からないのではと思うのです。中学校に行ったらより具体的にいろいろなことを、単語を並べてやるのですが、この時はこうですよというのは、ある面で教えてあげないと。なぜ eat が変わるのかと。それこそ疑問に思ってしまうだけだと思うのです。それで過去形はこう言うのですよというのを何回も練習したらいい話で、ある程度は必要ではないかなと。あくまで、生活で使うものについてはある程度触れてもいいのではないかと思います。それを何回も繰り返してやらなければならないと思います。聞いていると、小学校で何を教えたらいいいのかなということがはっきり分からないのです。語学としてもっといっぱい英語に親しむというのを小学校では大事にしようとか、中学校への1つの段階意識としてやるのか。そのところをもう一度議論しなくてはこの教科書をどうやって使っていけばいいのかということになる。英語の専門の先生の教科書ではないと思うのです。英語科の先生が教える英語の教科書とは違うのだと。担任になったら、この教科書を使ってみんな英語に親しむのだと。そのための教科書ですよ。そこら辺の違いをはっきりさせてやらないと、いつまでたっても英語の先生日より、ALT の先生日よりになってしまって、楽しい英語にはならないと思うのです。この教科書がどうかではないのですが、何回も何回も、簡単なことでも何回も聞いて話し、いろいろなことをして、それに対して答える。あなたはどんな色が好きですか、と聞いたら赤とか青とか。その時、英語でいろいろ返して。色をたずねるにはこう言えばいいのだということは自然に体に入ってくると。それが1番大事なことですよね、高学年としては。教えるのではなく、自然に会話をする中で覚えていく。それは英語活動もそうでしょう。英語で歌を歌っ



たり、いろんなことをしたりして、きちっと踏まえて次に行く。そこら辺がきちっとできるのかなということもあるし。どうですか

黒川校長 英語の調査官をやられた直山さんが話をされていたのですが。直山さんがどれだけペラペラに英語で話して授業をしても、担任の先生には絶対勝てないと。担任の先生は日本語英語で発音も下手ですが。だけど、担任が授業を一生懸命やると子どもらは本当に英語好きになっていくと。なぜかという、担任の先生が一生懸命英語を使うモデルになるから子どもたちも英語が楽しくなるということです。津市でありがたいのは、早くから20人のALTを配置していただいて、他の市町がALTが来なくてどうしようと言っている時にも、必ずALTの先生がいました。しかし、その反面、先生たちはALTに頼りがちになって、ALTの発音が速いと子どもも英語が嫌いになってくるという危険もある中で、本当に恵まれた環境ですけど。いよいよ先生らがみんなで英語の授業をしなければならなくなった時に、先生がみんな自分でやるのだと。あまり研修が進んでないところもALTに頼らず、T1でやっていくのだと。やっていくためにある程度ブラッシュアップしていかないといけないと。一生懸命この教科書を使って英語で話すのだという気持ちを高めていくことが大事だなと思っています。だから、音声が必要かとか、動画が必要かと言うと、ALTと一緒にアシスタントとして、専門的な発音はどうか、正確な発音はどうかということを確認するためです。先生ががんばってこの教科書を使って、子どもらとがんばるぞという気持ちになれる教科書を選びたいと思って、この教科書になりました。

教育長 その他、いかがでしょうか。

中村委員 ニューホライズンについているQRコードを見ると、他の書籍と比べて内容はどうなのでしょう。

黒川校長 内容はものすごく突出してこれがいいということではないのですが、圧倒的に違うのは数です。全部で3冊合わせて200カ所あるので、大体聞きたいなと思うところは網羅されている、リンクしているところがあります。一応聴き比べもしてみたのですが、みんな音声はきれいに聞けますし、見ることもできますので、他社がだめということではなかったんですけど。数の上で一番豊富だったと思っています。

上島委員 できるだけ担任が英語を教えてもらわないといけないと思うのです。

ある面人に任せてでは英語の発展性がないと思う。中学校と変わりがなくなってしまう。英語嫌いだけは作って欲しくない、小学校の段階で。中学校で英語嫌いがどんどん増えてしまう。それを低学年に持ってくることは全くマイナスだと思う。子どもにとっては辛いだけだと思う。ですから、英語が楽しいなと思わせるように。先生も少々間違ってもいいと思う。子どもが、先生、それ発音が違う、と言える授業でいいと思う。一緒にやっていけばいい。子どもが気づいてくれたら立派な話。先生は間違えたから、直すねと。そういうことができるような授業を。やはり、担任の先生なり全く英語をこれからやる先生でもいいと思うのです。そこに本当の英語の楽しみもあれば子どももそれについてくると思うので。専門的にやらないといけないという感覚でやると英語嫌いを作ってしまうと思うので。その辺この教科書はそうではないということなので。ただ、使い方だと思う。気をつけて欲しい。

教育長 他によろしいでしょうか。それではないようですので、調査員代表の黒川先生大変お世話をおかけしました。ありがとうございます。これで退席していただきたいと思います。

教育長 それでは英語についての教科書採択について御意見をお願いしたいと思います。

上島委員 中学校はどこの教科書か。

事務局 同じ東京書籍のニューホライズンです。

教育長 上島委員がおっしゃったように、英語嫌いを作らないような授業展開ということにかかってくると思うのですが。

滝澤委員 教師にとっても、教えるにあたって手助けしてくれる手法、QRコードとか発音に対してとかそういうのがあるし。この Picture Dictionary 非常に使いやすいのではないかと思いますので、東書でいいのではないかなと思います。

教育長 ありがとうございます。その他御意見いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ないようですので、東京書籍の New Horizon Elementary English Corse を令和2年度使用する小学校用教科書として採択することに決定してよろしいでしょうか。それでは、教育委員会として、東京書籍の New Horizon を

令和2年度使用する小学校用教科書として採択することに決定いたします。これで全ての教科が終わりましたので、議案第42号になりますが教科書採択に関わる審議を終了いたしたいと思います。